令和７年度

総合的な学習の時間教育研究集録

第 23 集

2026.2

愛 媛 県 教 育 研 究 協 議 会
総合的な学習の時間研究委員会

は　じ　め　に

現在、教育を取りまく環境は、探求的な学びの重視、生成ＡＩの導入、次期学習指導要領改訂への準備、そして働き方改革等、大きな変革の真只中にあります。

そのような中、本研究委員会では、昨年度に引き続き、「よりよく生きる力を育む総合的な学習の時間の研究－探究的な見方・考え方を働かせ、主体的・協働的で深い学びを求めてー」の研究主題の下、研究を進めてまいりました。８月５日には、第23回愛媛県総合的な学習の時間教育研究会を、今治市中央公民館で開催しましたところ、多数の先生方に参加していただきました。誠にありがとうございました。

当日の研修では、四国中央市立上分小学校　越智　啓路　先生に『「よりよく生きる力」を育む総合的な学習の時間～防災学習を通して～』と題して、地域を巻き込んだ防災学習ついて御発表いただきました。松前町立松前中学校　渡部　馨介　先生には、『「生きる力」を育む総合的な学習の時間の研究』と題して、１・２年生で探究した課題の中から継続して探究したい課題を選択し、それを更に深く追究し、地域貢献へと展開した取組について御発表いただきました。両校ともすばらしい実践をされていて感動いたしました。この２校の実践につきましては、本研究集録に掲載させていただきましたので御覧いただき、参考になさってください。

また、文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官、国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 齋藤　博信　先生には、お忙しい中御来県いただき、「質の高い探究的な学びを実現する総合的な学習の時間～次期学習指導要領の論議を踏まえて～」という演題で講演をしていただきました。探究の質を高める単元つくりや学びの姿を示していただきました。それに加えて、次期学習指導要領の改訂の方向性や教育課題をめぐる探究的な学びの可能性について、全国学力・学習状況調査の結果から導き出された結果について、丁寧に分かりやすく解説していただきました。大変充実した研修会となりました。参加した先生方からは、「実践発表も講演も大変参考になった。今後のヒントがたくさんあった」「学習の進め方について深く学べた」「次期学習指導要領改訂に向けての動きがよく分かった」等の感想をいただきました。

今後も、これまでの実践の成果を生かしながら、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、「よりよく生きる力」を身に付けて、これからの時代をたくましく生き抜く子どもの育成を目指して、授業改善や実践研究に努めてまいりたいと思います。

最後になりましたが、本研究集録発刊に当たり、お世話をしていただいた各支部委員長の先生方、この紀要作成に御協力いただいた先生方、そして、様々な御指導や御助言を賜りました各方面の先生方に心より感謝申し上げます。今後とも、子どもたちの豊かな学びが実現できますよう、御尽力・御指導をよろしくお願い申し上げます。

令和８年２月

愛媛県教育研究協議会　総合的な学習の時間研究委員会

委員長　　佐藤　郁子

目　　次

はじめに　　総合的な学習の時間研究委員会委員長　佐藤　郁子

Ⅰ　令和７年度総合的な学習の時間研究計画　1

Ⅱ　研究主題･研究のねらいの解説　　総合的な学習の時間研究委員会研究部長　吉岡　　舞　3

Ⅲ　実践発表

実践発表１　小学校実践研究発表

「「よりよく生きる力」を育む総合的な学習の時間　－防災学習を通して－」

四国中央市立上分小学校　越智　啓路　7

実践発表２　中学校実践研究発表

「主体的、協働的に取り組み、自己の生き方を考える生徒の育成」

松前町立松前中学校　渡部　馨介　12

Ⅳ　講演要旨

「質の高い探究的な学びを実現する総合的な学習の時間－次期学習指導要領の議論を踏まえて－」

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官　齋藤　博伸　18

Ⅴ　研究大会報告

令和７年度　全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会　広島大会

松山市立伊台小学校　三浦　智子　20

第 14 回　四国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会研究大会　徳島大会

宇和島市立遊子小学校　西原　睦美　31

各支部委員長・委員会役員一覧　41

編集後記

（小・中学校共通）

総合的な学習の時間

Ⅰ　研究主題

「よりよく生きる力」を育む総合的な学習の時間の研究

－探究的な見方・考え方を働かせ、主体的・協働的で深い学びを求めて－

Ⅱ　研究のねらい

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

⑴　探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。

⑵　実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

⑶　探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

この目標を達成するためには、総合的な学習の時間において各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものにするとともに、各教科等を超えた学習の基盤となる資質・能力を育成するよう、探究的な学習の過程を一層重視することが大切である。

本研究主題の「よりよく生きる力」とは、「主体的に物事に関わり、他者と協働して課題の解決に取り組み、自己の生き方を考え、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力」のことであり、これまでの「生きる力」を改めて捉え直したものと考える。したがって、本研究のねらいは、これまでの実践に立脚しつつ、学習指導要領の趣旨を踏まえ、探究的な見方や考え方を働かせ、主体的・協働的で深い学びを通して「よりよく生きる力」を育む総合的な学習の時間を創造することにある。

Ⅲ　研究の視点

（【　】は愛教研「主体的・対話的で深い学びに向かう授業」モデルと主に対応するものを示す。）

１　探究的な見方・考え方を働かせるカリキュラム・マネジメントの在り方

⑴　育成を目指す資質・能力の明確化

⑵　目標を実現するにふさわしい探究課題の在り方【Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ】

⑶　各教科等における見方・考え方を総合的に活用して課題を探究する学習過程【Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ】

２　主体的・協働的で深い学びを実現する指導の在り方

⑴　探究的な学習の過程を質的に高める工夫【Ｎ】

⑵　他者と協働して課題を解決しようとする学習指導の工夫【Ｇ・Ｈ・Ｉ・Ｊ】

⑶　ＩＣＴ機器や「考えるための技法」の効果的な活用【Ｇ・Ｉ・Ｍ・Ｎ・Ｏ】

３　育成を目指す資質・能力を踏まえた評価の在り方

⑴　学習を振り返り、自分にとって学ぶことの意味や価値を考える評価【Ｅ・Ｎ】

⑵　具体的な姿を見取るにふさわしい評価規準の設定と評価方法や評価場面の適切な位置づけ

【E・N】

⑶　信頼される評価、多面的な評価、学習状況の過程の評価の工夫【E・N】

Ⅳ　留意事項

1　学習指導要領の趣旨や内容の理解を深める研修の充実

2　自校の教育目標を踏まえた全体計画、年間指導計画、単元計画及び評価計画の改善

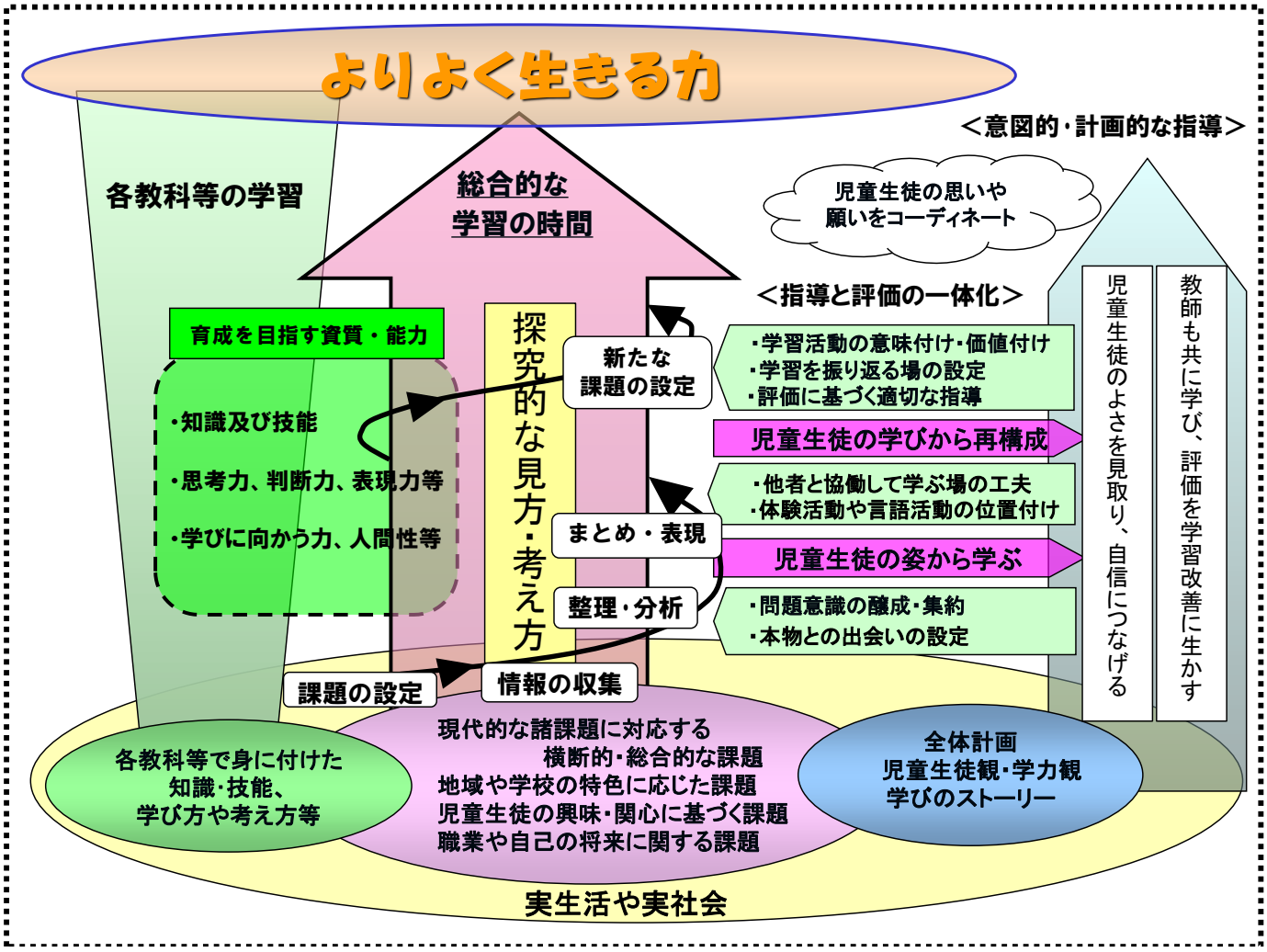
3　多様な学習活動に対応するための学習環境の工夫

4　すべての教職員が一体となり、協力できる校内組織の整備

5　確実かつ柔軟な実施のための授業時数の確保と弾力的な運用

6　家庭や地域と連携・協働しながら取り組む外部連携の構築

＜「よりよく生きる力」を育む総合的な学習の時間のカリキュラム・マネジメント＞



令和８年度に開催予定の研究大会

○　第 24 回愛媛県総合的な学習の時間教育研究会
7 月 30 日(木)　南宇和

○　第 35 回全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会全国大会　宮城大会（仙台市）
11 月 19 日(木)・20 日(金)

Ⅱ　研究主題・研究のねらいの解説

愛媛県教育研究協議会　総合的な学習の時間研究委員会
研究部長　吉岡　舞

１　学習指導要領に示された総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

⑴　探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。

⑵　実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

⑶　探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

２　改訂のポイント

○　総合的な学習の時間と各教科との相互の関わりを意識しながら、育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメントが行われるようにすること

○　探究のプロセスを通じた一人一人の資質・能力の向上をより一層意識すること

３　研究主題

「よりよく生きる力」を育む総合的な学習の時間の研究
―探究的な見方・考え方を働かせ、主体的・協働的で深い学びを求めて―

４　研究の視点

⑴　探究的な見方・考え方を働かせるカリキュラム・マネジメントの在り方

ア　育成を目指す資質・能力の明確化

イ　目標を実現するにふさわしい探究課題の在り方

ウ　各教科等における見方・考え方を総合的に活用して課題を探究する学習過程

⑵　主体的・協働的で深い学びを実現する指導の在り方

ア　探究的な学習の過程を質的に高める工夫

イ　他者と協働して課題を解決しようとする学習指導の工夫

ウ　ＩＣＴ機器や「考えるための技法」の効果的な活用

⑶　育成を目指す資質・能力を踏まえた評価の在り方

ア　学習を振り返り、自分にとって学ぶことの意味や価値を考える評価

イ　具体的な姿を見取るにふさわしい評価規準の設定と評価方法や評価場面の適切な位置付け

ウ　信頼される評価、多面的な評価、学習状況の過程の評価の工夫

５　探究的な見方・考え方を働かせるカリキュラム・マネジメントの在り方

⑴　育成を目指す資質・能力の明確化

各学校における教育目標を踏まえて、総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力を、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の「３つの柱」に即して具体的に示すこと。

⑵　目標を実現するにふさわしい探究課題の在り方

目標の実現に向けて学校として設定した、探究的な学習に取り組む課題のことである。探究的な見方・考え方を働かせて学習することがふさわしい課題であること。横断的・総合的な学習が展開される課題であること。よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくことに結び付いていくような、資質・能力の育成が見込まれる課題であること。以上の３点を備えていることが求められる。例示されているものから、各学校の総合的な学習の時間の目標や、児童生徒、学校、地域の実態に応じて設定する。

【探究課題の例】
・横断的・総合的な課題
・児童生徒の興味・関心に基づく課題
・地域や学校の特色に応じた課題

〈　探究課題の例　〉

全体計画には、学校の教育目標を踏まえた総合的な学習の時間の目標があり、目標を実現するにふさわしい探究課題、育成を目指す資質・能力が示されることが必要である。また、それらの資質・能力が育成されているかを見取るための、評価規準も示される。

⑶　各教科等における見方・考え方を総合的に活用して課題を探究する学習過程

年間指導計画では、関連する各教科等の単元や学習活動、育成を目指す資質・能力とのつながりを明記することで、各教科等のそれぞれの単元における「習得」と「活用」を意識した学習活動を展開することができ、各教科等における見方・考え方を総合的に活用して課題を探究する学習過程を構想しやすくなる。

６　主体的・協働的で深い学びを実現する指導の在り方

⑴　探究的な学習の過程を質的に高める工夫

探究的な学習では、学習過程が課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現となることが重要である。そして、この一連の過程から、更に新たな考えや課題が生み出され、また一連の過程が繰り返され、高まっていく。この探究的な学習の過程を質的に高めるために、一つ一つのプロセスを大切にしていきたい。

「課題の設定」では、体験活動や人との出会い、ワークシートなどを活用した思考活動、学校行事などを通して、児童生徒が自分にとって価値のある課題を設定できることが重要である。設定した課題を基に、体験活動をしたり、見学や調査をしたりして情報を収集する。その際、タブレット型端末などのＩＣＴ機器を活用することで、情報収集の方法の幅が広がる。インターネットで情報を検索したり、アンケート作成ツールを用いて多くの人から回答を得たりして、必要な情報を収集することができる。ま



〈　タブレット型端末の活用　〉

た、見学や調査したことをタブレット型端末に写真や動画で記録、保存することもできる。課題の解決に向けて見通しを持ち、適切な手段を選択し、各教科等で身に付けた資質・能力も発揮しながら、情報を収集することが大切である。

⑵　他者と協働して課題を解決しようとする学習指導の工夫

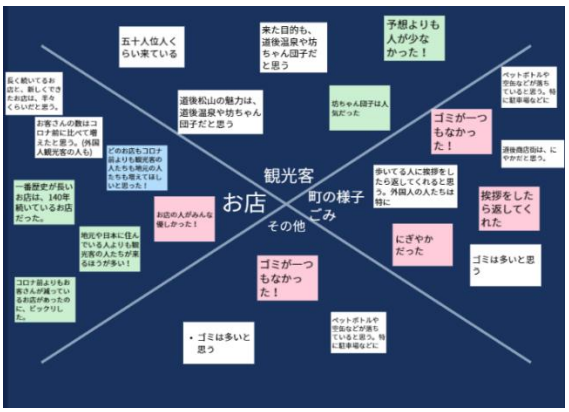
「情報の収集」や、次の過程である「整理・分析」の場面では、他者と協働して取り組むことで、学習が更に広がり、深まる。情報交換をすることで多様な情報が集まる。話合い活動や意見交換では、異なる意見や考えに触れることで、各自の思考や理解が深まる。また、専門家、地域の方と協力し合ったり、交流したりすることで、課題の解決に近付くことができる。このように、対話を通して協働的に取り組む学習活動を工夫することで、探究的な学習の質が高まっていく。



〈　話合い活動の様子　〉

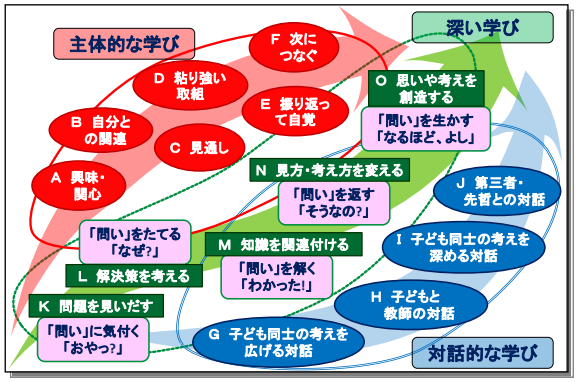
⑶　ＩＣＴ機器や「考えるための技法」の効果的な活用

多様な情報を、整理・分析して、思考する活動へとつなげていく。ここで、思考ツールの活用が効果的である。考えや意見を可視化し、関連付けて整理したり、比較したり序列化したりして、整理・分析する。これらを目的に応じて上手く活用することによって、「考えるための技法」が身に付き、他教科でも生かすことのできる汎用的な力になっていくことが期待できる。これらは、総合的な学習の時間だけでなく、全教育活動の中で習得していくことが大切である。



〈　思考ツールの活用　〉

整理・分析した情報を伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする活動が、「まとめ・表現」である。その方法には様々な活動が考えられる。ここでもＩＣＴ機器の活用が有効である。プレゼンテーションや動画など、相手や目的に応じて表現方法を選択することもできる。また、ＩＣＴとアナログのベストミックスも大切である。「まとめ・表現」においては、相手意識や目的意識を明確にすること、自分の考えや新たな課題を自覚すること、目的に応じて表現方法を選択できること、他教科等で身に付けた方法を活用することを大切にしていきたいと考える。また、まとめたもの、表現したものを地域の方や専門家の方など第三者に見てもらうことで、学習意欲や学びの質が高まる。これによって、これまでの学習で身に付けた知識と情報がつながったり、一人一人の考えが明らかになったりして、新たな課題が生まれ、探究的な学習の過程が繰り返され、高まっていく。



〈「主体的・対話的で深い学び」に向かう授業」モデル　〉

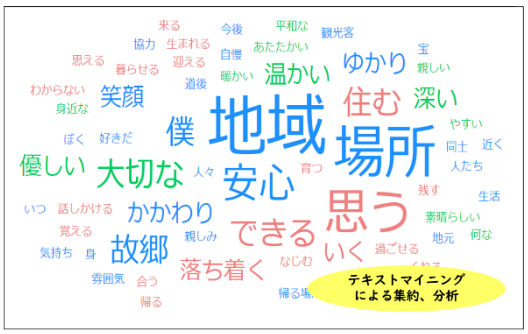
7　育成を目指す資質・能力を踏まえた評価の在り方

⑴　学習を振り返り、自分にとって学ぶことの意味や価値を考える評価

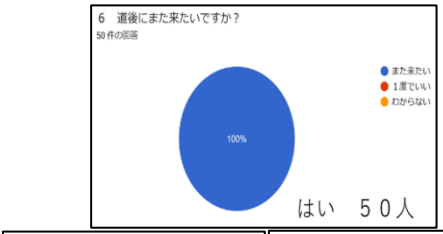
愛媛県教育研究協議会の授業モデルには、「振り返って自覚」という項目があり、学習したことを生きて働くようにするための振り返りについての具体的な方策が示されている。学びが自分自身やこれからの生き方にどうつながるのかを意識し、自分にとって学ぶことの意味や価値を考えるためには、これらの方策を用いて振り返りをすることが効果的であると考える。

⑵　具体的な姿を見取るにふさわしい評価規準の設定と評価方法や評価場面の適切な位置付け

自己評価の方法を工夫することで、学習を振り返り、学ぶことの意味や価値を考えることができる。また、学習を通して自分にどのような力が身に付いたのかを自覚したり、学んだことをこれからの生活にどのように生かしていきたいか考えたりすることもできる。ワークシートだけでなく、タブレット型端末のアンケート機能や座標軸の一部を使ったポジションシートなどＩＣＴ機器を活用した評価も、見取ったことを蓄積したり、集計、分析したりすることができ、効果的である。また、テキストマイニングで児童の思いや願いを集約したり、分析したりする方法もある。自己評価に加えて、児童生徒が互いの学習状況を評価し合う相互評価、保護者や地域の方々による第三者評価など、多様な方法を組み合わせ、学習過程全般で評価を行うことが大切である。相互評価によって、協働的な学習や自分自身のよさ、自己の学びに気付くことができ、他者評価によって、学習してきたことへの充実感や達成感、喜びを味わうことができる。これらの評価を通して、社会参画への意欲や自分の成長への自覚が促され、児童生徒が自己の生き方を考えていくことにつながると考える。学習過程のどの場面で、誰が、どのような観点で評価をするのか、しっかりと検討することが必要である。



〈　テキストマイニングによる集約、分析　〉



分かりやすく、詳しく説明してもらえたのでネットで調べるよりも道後のことをたくさん知ることができました。旅行がより思い出深いものになりました。ありがとうございました。

岡山県　Ｙさん

熱心な話を聞いて、鯛めしは買えなかったですが、一六タルトのあまおうかつを買いました。このアンケートを書きながら急の車内で食べていますが、とても美味しいです。教えてくれてありがとうございます。次こそは鯛めしをリベンジしようとも考えています。また来ます。

大阪府　Ｆさん

〈　第三者評価（他者評価）　〉

⑶　信頼される評価、多面的な評価、学習状況の過程の評価の工夫

児童生徒の学習状況を的確に評価するためには、信頼される評価であること、多面的な評価であること、学習状況の過程の評価であることが重要である。どの教師も同じように判断できるように、評価の観点や評価規準を確認しておくこと、児童生徒の成長を多面的に捉えるため、多様な評価方法や評価者による評価を適切に組み合わせること、児童生徒の内に育まれるよい点や進歩の状況を積極的に評価することを大切にし、指導に役立てていく評価について、研究を進めていきたいと考えている。

8　終わりに

総合的な学習の時間では、教師も、児童生徒と共に、体験したり考えたりして、学び、成長することができると考えている。これからも、「探究的な学習のよさ」を実感できる、「主体的・協働的で深い学び」を目指していきたい。

Ⅲ　実践発表

実践発表１　小学校実践研究発表

「よりよく生きる力」を育む総合的な学習の時間

－防災学習を通して－

四国中央市立上分小学校　越智　啓路

１　主題設定の理由

上分小学校は、令和７年度に創立150周年を迎える歴史と伝統ある学校であり、四国中央市の東部、法皇山脈の北麓に位置する。南北には土佐、阿波に通じる街道が通り、金生川が流れている。保護者や地域の方は地域への愛着と誇りを持っており、学校教育活動にも大変協力的である。学校運営協議会においては、通学路の危険箇所や避難所運営等について熟議を重ね、児童の命と安心、安全を守るための学校支援も熱心に行ってくださっている。保護者や地域の方と協力し、総合的な学習の時間の実践を進めることで、児童はさらに探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することができると考え、本主題を設定した。

２　研究の実践

総合的な学習の時間では、３年生「大好き上分の町」、４年生「みんなにやさしい暮らし」、５年生「なかまとともに生きる」、６年生「幸せに生きる」のテーマで行っている。その中で、５年生は、環境、防災、人権について学習をしている。

⑴　課題の設定

2024年１月１日の能登半島地震、４月17日の豊後水道地震など、昨年度大きな地震が発生した。豊後水道地震では実際に児童は揺れを経験している。近々発生するといわれている南海トラフ地震への不安を抱く姿が見られた。児童は、いつ起こるか分からない災害に備えることに必要性を感じていたが、自分たちにできることやどのような備えをするべきなのか十分理解している様子ではなかった。防災の日をきっかけに阪神・淡路大震災、東日本大震災の動画を視聴し、児童はどう避難すればいいのだろうという疑問を持ち始めた。そこで、「災害時、安全に避難できるように上分町の危険箇所や安全な場所を調べ、よりよい避難経路を考えよう」という課題を設定した。

⑵　令和６年度の取組

自分たちの住む地域を知り、普段から地域の方と顔の見える関係を構築しておくことで、災害時に安全に行動し、協力して命を守ることができる。地域の方と一緒に防災マップにまとめることで上分町をより深く知ることができ、ともに活動することで地域の一員としての自覚も高まると考え、地域、家庭と連携しながら進めた。地域の方と連携するために、全体説明会、事前打合せ会など、防災学習をどのように進めていくのか思いを伝える場を設定した。学習を進めていく中で疑問に思ったことを解決するために、児童の思いを基に「手つなぎ防災広場」や防災士を招いての授業を取

り入れた。

ア　全体説明会

防災学習をどのように進めていくのか説明し、フィールドワークの班分けを行った。上分町を５つに分けたグループ編成を地域の方に見ていただくと、地域の分け方について多くの意見が出てきた。地域の特徴を生かして充実した活動となるように、フィールドワークのしやすさや集会所、防災倉庫の位置など、様々な視点から地域の分け方を検討し見直した。児童の班編成は、住んでいる地区ごとに行った。



〈　全体説明会　〉



〈　地域の分け方の検討の様子　〉

イ　フィールドワーク

フィールドワークでは、児童の興味・関心を考慮して地震に絞って情報収集を行うことにした。上分町には金生川や池があり、過去にも川の氾濫、浸水などの被害があったため、地域の方々には水害についても取り上げてほしいという思いがあった。そこで、金生川や池の周辺でフィールドワークをするグループには、川や池の危険性についても調べるよう声掛けを行った。

地域の方とフィールドワークを行ったことで、児童だけでは気付けなかった危険箇所や安全な場所をたくさん見付けることができた。金生川近くを担当したグループは、地域の方から水害の話を聞き、水位表示など水害への備えなどについての工夫を見付けた。フィールドワーク後、児童から「地域の人とたくさん危ない場所や安全な場所を見付けることができた。」「地域の人と楽しくフィールドワークをすることができた。」「上分町のことを以前よりもっと知ることができた。」といった感想が出てきた。地域の方からも、「上分町だけでなく、児童のことも深く知ることができた。」などのお話をいただき、児童と地域の方の関係が深まっているように感じた。



〈　フィールドワーク　〉

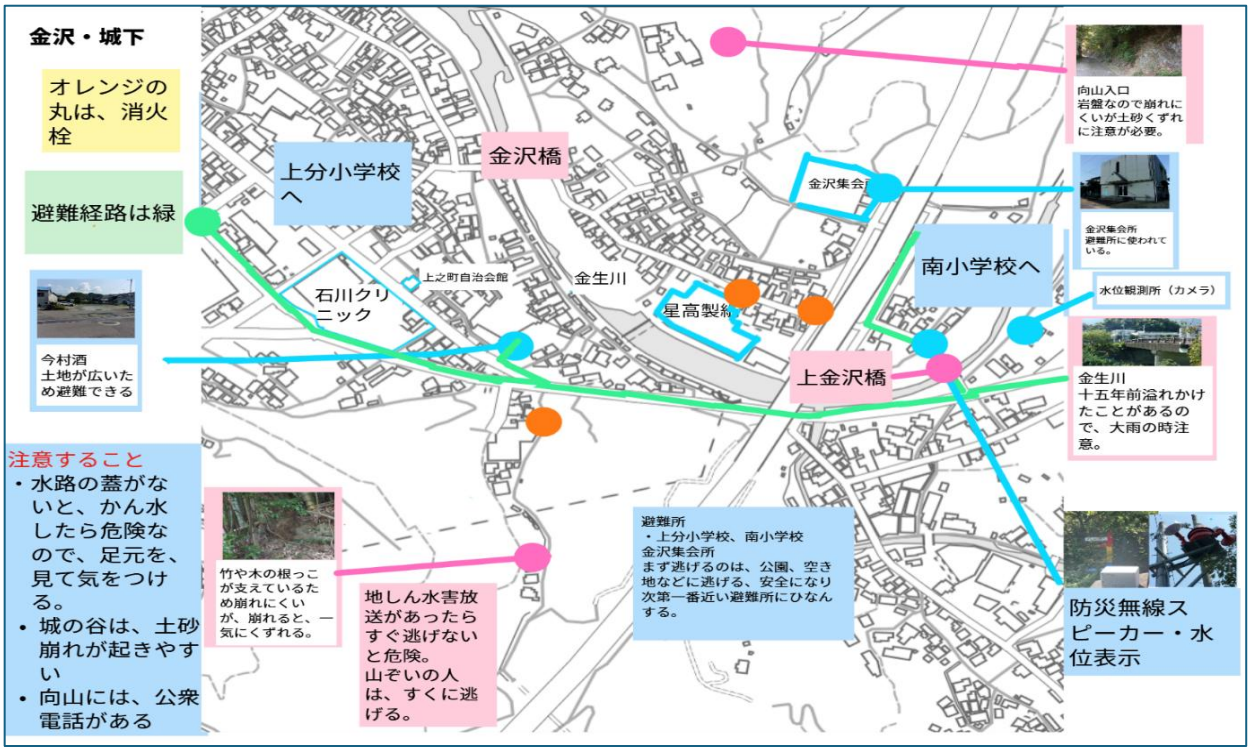


〈　地域の方との交流の様子　〉

ウ　防災マップ作成

フィールドワークで集めた情報を、国土地理院の白地図をベースにしてロイロノートの共有ノートを使って地図にまとめた。デジタルで作成したことで、線や付箋の色を自由に変えたり、写真を挿入したりして、視覚的に見やすい防災マップになった。仕上がった防災マップを基にして、グループごとに災害時にどのように避難すればよいのか分析し、安全な場所や危険な場所が分かるように工夫してまとめることができた。

防災マップについて改善点や安全な避難経路を考える際には、拡大印刷したものを使用した。話合いで出てきた意見をすぐに書き込むことができ、即時性が高かった。全員で同じものを見ながら話し合うことで、一体感が生まれ、話合いが活性化された。最初は自分たちが安全に避難するための防災マップだったが、フィールドワークで一緒に活動した地域の方との関わりを通して、地域のことも考えた防災マップへと変化していった。



〈　児童が作成した防災マップ　〉

エ　交流会

児童が作った防災マップを基に、地域の方と避難ルートや危険箇所を話し合う活動を行った。事前に、地域の方に防災マップの良い点や改善点について確認していただいた。また、交流会では、児童の意欲向上のために、児童の頑張りをほめることや、児童主体で話合いが進められるようサポートしてほしいとお願いをした。さらに、地域の方から見てどのように改善すればより分かりやすく、災害時に活用できる防災マップになるのか助言をしていただきたいことも伝えた。

交流会の話合いでは、防災マップに追加するべき情報はないか、安全な避難経路はどこかについて考えた。ある地域では、池が決壊した場合の避難場所や危険なところがもっと分かりやすいものになると良いという意見が出ていた。地震が起こった際に情報が入りにくいので、みんなの

命を守るために何ができるのか意見を出し合っていた。児童は地域の方々の思いを受け、この地域に住んでいる人を守るためには、地震発生後、自分たちが避難を呼び掛けることが必要だと考えた。また、災害時に命を守るためには、危険な場所を知ってもらうことが大切だと考え、付箋の色だけでなく文字の色も変え、危険箇所を強調することにした。地域の方々と話し合って出てきた意見を取り入れ、防災マップを改善していった。



〈　改善後の防災マップ　〉

オ　防災体験活動

学習を進めていく中で、災害時に自分たちができることをもっと知りたいという思いが高まった。そこで、婦人会や日本赤十字社の方にご協力をいただき、避難所生活で役立つことや家庭でできる備えなどについて体験をしながら学習した。避難所での生活体験では、新聞スリッパや段ボールベッド、トイレの組み立てを体験した。防災食体験では、災害時を想定し、ハイゼック炊飯袋（耐熱性、強度に優れており、袋のまま鍋で加熱してご飯を炊くことができるもの）を使用して米を炊き、レトルトカレーをかけて食べた。防災バッグの確認では、100 円ショップなど身近なところで安く手に入れられる防災グッズを紹介していただいた。どれも、児童の防災意識を高め、災害時には地域の人と共に協力していかなくてはいけないという気持ちを持つことができる活動になった。

カ　防災士の授業

防災士でもある自主防災会会長の授業では、地震の仕組みや日頃の備え、近所同士のつながりの大切さなどについて分かりやすく教えていただいた。その際に、会長の提案で災害用伝言ダイヤルも体験することができた。デモ機を使って録音の仕方や再生の仕方を児童や保護者、地域の方が一人ずつ体験した。この活動を通して、家族に安否を知らせる方法も学ぶことができた。

キ　まとめ・表現

地域の人に向けて作った防災マップと、学習を通して考えた自分にできることを地域の方々に発表した。地域の方々からは、「一緒に防災マップを作成することができ、良い経験になった。」「地域住民同士のつながりができ、災害時に協力できる関係を築くことができた。」などの感想をいただいた。児童は、防災意識を高めただけでなく、地域の一員としてさらに自分たちにできることを学び行動していきたいという気持ちを持つことができた。公民館長さんの提案により、町の文化祭で展示し、多くの地域の方に見ていただくことができた。

4　成果と課題

⑴　成果

○　集めた情報をロイロノートの共有ノートを活用して整理し、より良い避難の方法を考えることができた。

○　地域の方と顔の見える関係を築くことができた。

○　地域の方と危険箇所や避難経路を共有できた。

○　「実社会や実生活の中から問いを見い出す力」「自分で課題を立てる力」「情報を集める力」「整理・分析する力」「まとめ・表現する力」が育った。

○　地域について深く知り、地域の方と共に活動したことで、地域の一員としての自覚が高まった。最初は自分たちがどう安全に避難するのか考えていた児童たちだったが、地域の方と防災学習を進めたことで、地域のみんなの命を守るための防災マップを仕上げることができた。

⑵　課題

●　地域の方の思い等を十分取り入れることができなかった。地域と学校のやりたいことのずれを調整することが難しく、どのように折り合いをつけていくのかについて考えていくことが今後の課題である。事前の打ち合わせ、児童の思いを地域住民に理解してもらう機会の設定が必要である。

●　今回だけの取組にならないよう、関わってくれた地域の方と引き続き協力できる体制づくりが必要になる。

●　防災マップを作ることだけが目的にならないように、教師が主体的な学びの伴奏者として、作成の過程における学びや気付き、交流を通して関わった人との触れ合いを中心に考え、授業を進めていく必要がある。

実践発表２　中学校実践研究発表

主体的・協働的に取り組み、自己の生き方を考える生徒の育成

松前町立松前中学校　渡部　馨介

１　主題設定の理由

本校は、全校生徒数 357 名の中規模校で、県都松山市の隣、西に瀬戸内海を臨む田園地帯にあり、豊かな自然に囲まれている。また、大型商業施設が校区内にあり、賑やかな側面も見られる。生徒の多くは、日々の授業や様々な活動に落ち着いて参加しているものの、中には、積極的な意思表示が苦手で、自信を持って発表したり行動したりするまでには至っていない生徒もいる。

そこで、本校では、研究主題を「主体的・協働的に取り組み、自己の生き方を考える生徒の育成」とし、教職員全員で取り組んだ。学年ごとに、自己の生き方を探究する学習課題および学習場面を設定し、主体的にたくましく生き、自己実現のできる生徒の育成を目指した。また、人と関わることを通して、社会に目を向けさせ、「共生」について考えさせるようにした。

本校では研修職員会の下に「教科指導部会」「人権・同和教育部会」「総合的な学習の時間研究部会」の三つの研究部会を設け、それぞれの部会で主任を中心に「主体的、協働的に取り組み、自己の生き方を考える生徒の育成」を目標に研究を進めてきた。生徒に身に付けてほしい力は、「課題の解決に必要な知識および技能」、「自分で課題を設定し、情報を収集したり、整理・分析したりして、まとめ、表現する力」、「探究的な学習に主体的・協働的に取り組み、積極的に社会に参画しようとする態度」とした。

２　研究の概要

⑴ 全体計画の見直し

⑵ 年間指導計画の見直し

⑶ 単元構想案の作成

⑷ 授業実践

３　研究の実際と考察

⑴ 全体計画の見直し

学習指導要領第１の目標、学校の教育目標や家庭地域の実態を踏まえた上で総合的な学習の時間の目標を定めた。目標を踏まえた上で、学年ごとに学年間の連続性・発展性や小学校との接続、他教科等で育成を目指す資質・能力の関連を明らかにしながらテーマを定め、目標を実現するにふさわしい探究課題を設定した。探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力は、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」と３つの柱を定めて各探究課題との関わりを通して、具体的に「どのようなことができるようになるか」を明らかにし、探

究の過程で達成することができるように計画した。全体計画の中に、学習活動、指導方法、指導体制、学習評価といった基本的な内容や方針等を概括的に示すものを設定し、教育活動の基本的な在り方を示すために箇条書きの簡潔な記述となるようにした。総合的な学習の時間が教科横断的なカリキュラムマネジメントの軸となるように、他教科等で育成を目指す資質・能力との関連を示すとともに、他教科との関連を示した年間指導計画（別葉）を作成した。

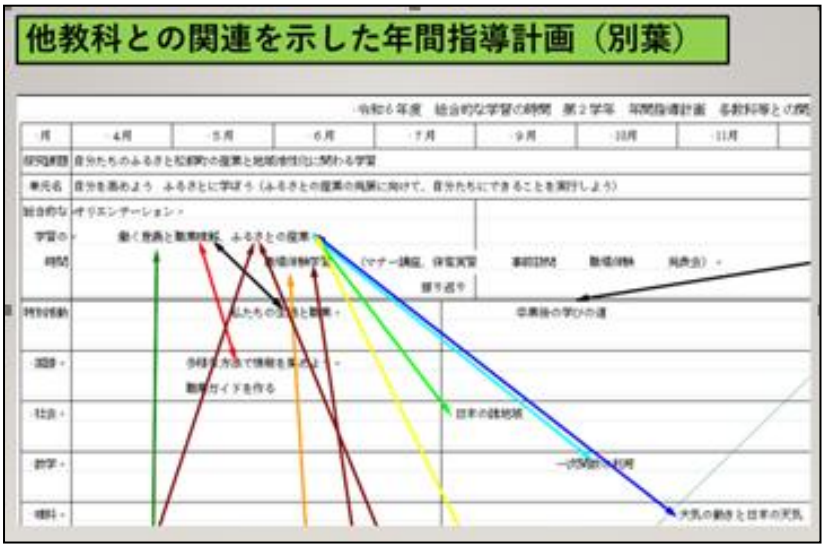
学習活動	指導方法	指導体制	学習評価
・地域の実態、生徒の実態を踏まえ、探究課題を設定する。 ・地域の歴史、産業、人を生かした学習活動を行う。 ・学習成果を発表する場の設定を工夫する。	・生徒の課題意識を連続、発展させる支援と工夫を行う。 ・体験活動を重視する。 ・各教科等との関連を重視した指導を行う。 ・言語により整理分析、まとめ表現させる。 ・協働的な学習を充実させるため話合い活動を行う。	・全校指導体制を組織する。 ・研究部会における校内の連絡調整と指導体制を確立する。 ・ICT 支援員を積極的に活用する。	・ポートフォリオを活用した評価の充実を図る。 ・観点別学習状況を把握するため評価規準を設定する。 ・個人内評価を重視する。 ・指導と評価の一体化を図る。 ・授業分析による学習指導の評価を重視する。 ・学年末に指導計画を評価・改善し、次年度に生かす。

〈　全体計画の一部　〉

総合的な学習の時間が教科横断的なカリキュラムマネジメントの軸となるように、他教科等で育成を目指す資質・能力との関連を示すとともに、他教科との関連を示した年間指導計画（別葉）を作成した。

⑵　年間指導計画の見直し

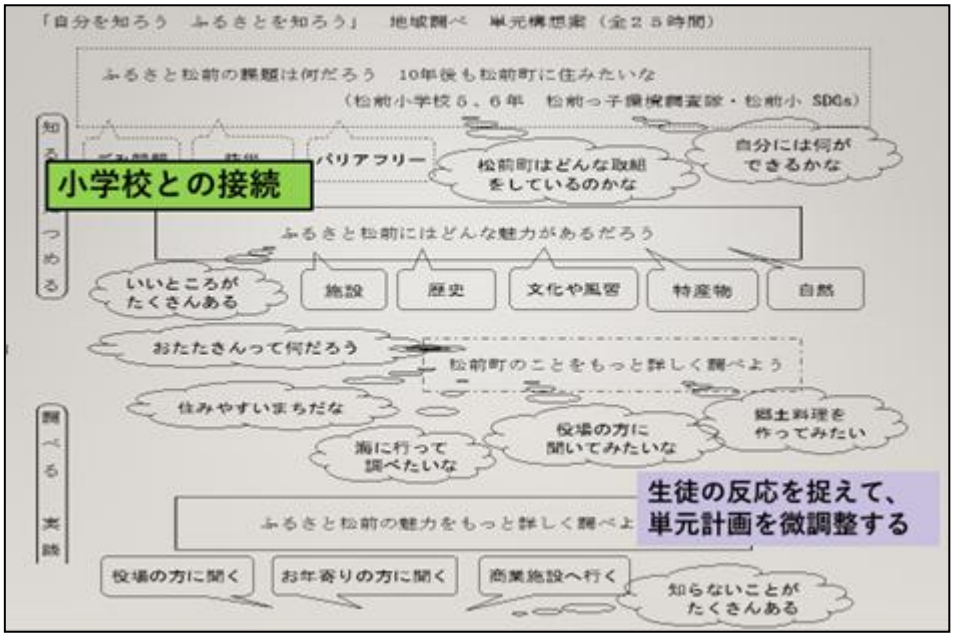
他教科との関連を示した年間指導計画を作成し、それぞれの教科で教科横断的な学びを実践できるように努めた。総合的な学習の時間における単元と、各教科の単元を配置することに加え、相互の関連を線で結ぶことで、１年間の流れの中で各教科等との関連を見通すことができる年間指導計画になるように工夫した。



〈　年間指導計画（別葉）　〉

⑶　単元構想案の作成

まず、生徒がどのような活動を求め展開していくのかを考えた上で、生徒が行う課題の解決や学習活動を通して、生徒が学ぶであろう事柄についてできるだけ多面的・網羅的に予測した。その際には、学校で定めた目標や内容と照らし合わせながら、小学校との接続を意識し、学年ごとに系統立てたものになるよう留意した。さらに授業における生徒の反応を捉えて単元計画に微調整を加え授業実践を行った。



〈　単元構想案　〉

２年生の英語科では職場体験学習のまとめを伝え合ったり、社会科では「中国・四国地方」の単元で松前町の町おこしを考え、ワークシートにまとめて意見交換をしたりした。３年生の社会科で「愛媛新聞 for スタディ」の松前町に関する記事をピックアップし、意見文を書いた。また、伊予高校との合同発表会も定期的に行っており、相互の総合的な学習の時間と探究の時間の成果を見たり聞いたりすることで、研究内容をより深みを持たせることができている。

⑷　授業実践

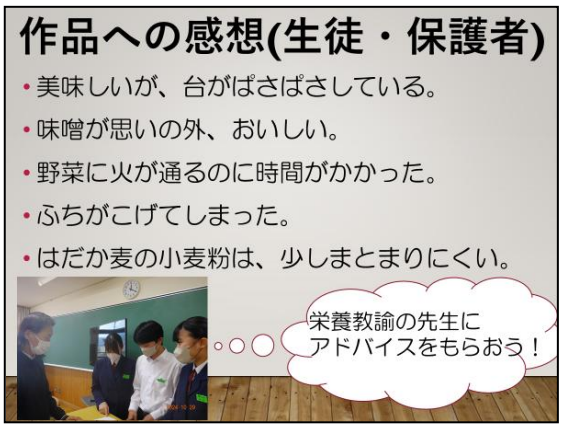
３年生では「自分を生かそう、ふるさとに貢献しよう」をテーマに授業実践を行った。

ア　「私たちの MASAKI PIZZA」

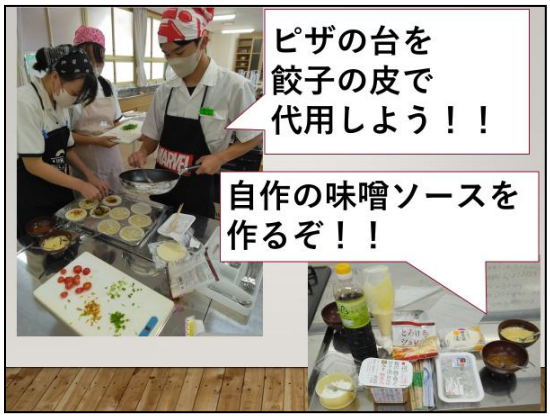
松前町の特産品の一つである「はだか麦」に注目し、１年生のときから研究を進め、２年生では職場体験学習で農業体験を行った。３年生となり、自分ができる地域への貢献方法として「はだか麦」を活用したピザ作りに取り組んだ。その際には、大洲農業高校食品デザイン科が大洲の特産品である「しいたけ」を使ったピザ作りの取組を参考にした。ピザには特産品であるはだか麦、しらす、じゃこてん、地元の野菜をふんだんに使い、ピザを食べた生徒・保護者の感想を基に、栄養教諭のアドバイスを受けて改良品を作った。



〈　松前のちりめんPIZZA　〉



〈　ピザ作りの振り返り　〉



〈　ピザ作りの様子　〉



〈　改良版 MISSO DE PIZZA　〉

イ　「瀧姫伝説を伝えよう」

３年生の年度初めに、地域への貢献方法を考えた。その際にこれまで調査してきた「瀧姫の伝説」を２年生で職場体験学習を行った幼稚園の子に読み聞かせてあげたいという思いを持ち、松前幼稚園でパワーポイントを活用して紙芝居の読み聞かせを行った。園児から「たきひめさんのおはなし、おもしろかった。おねえさんありがとう」などの感想をもらうことで、生徒たちは地域貢献への充実感を感じている様子が見られた。

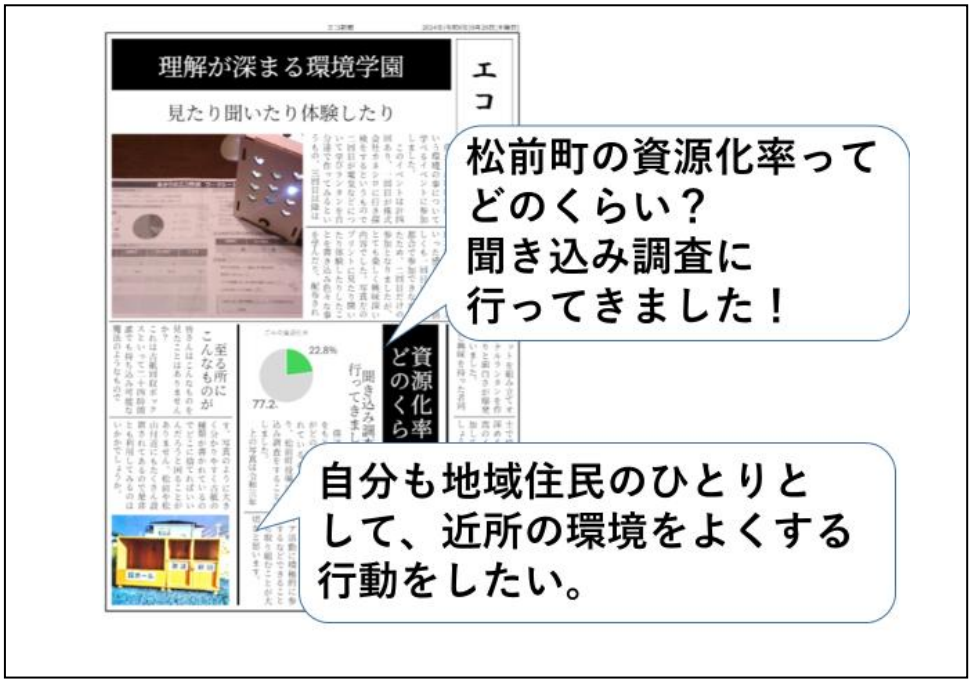


〈　幼稚園での読み聞かせ　〉

ウ　「松前町の環境」

２年生で学習した中古車分解とリサイクルパーツ販売を行っている会社での職場体験学習をきっかけに、３年生では松前町の環境問題への取組を調査した。また学んだことを使い、町のＰＲにつなげたいと考え、愛媛新聞のクミハンコンクールに応募した。

さらに、全校生徒に詳しく知ってもらいたいと考え、文化祭で松前町の環境問題の取組、松前町の現状などを発表した。松前町ではひまわりの種から食用の油を作っている。その使用後の油からバイオディーゼル燃料を作り、それらをひまわりバスの燃料に活用している。身近な乗り物にも環境問題への対策がされていることに生徒は驚いている様子だった。



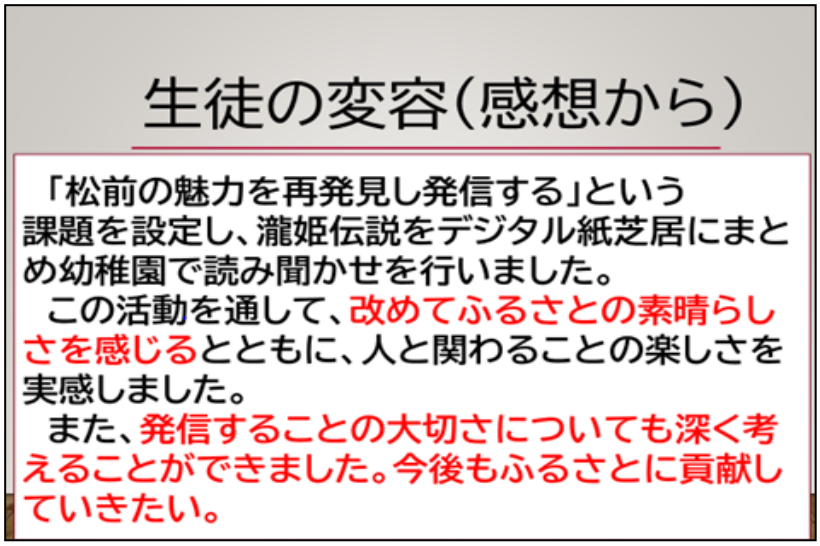
〈　クミハンコンクールに応募した新聞　〉





〈　文化祭で発表した資料の一部　〉

学習のまとめで生徒が記入した感想からは、改めてふるさとの素晴らしさを感じ、今後もふるさとに貢献していきたいという記述が見られた。



〈　生徒の感想　〉

4　成果と課題

○　三年間を見通した指導計画が、ふるさとに貢献したいという気持ちを持つことにつながった。また、自分の考えを他の人に伝えたい気持ちも高まった。「主体的・協働的に取り組み、自己の生き方を考える生徒の育成」をテーマに、学年ごとに自己の生き方を探究する学習課題および学習場面を設定して、主体的にたくましく生き、自己実現のできる生徒の育成を目指した結果であると感じている。

● 適切な場面で実態調査を行うことができていなかったため、ロイロノートのアンケート機能やGoogle formなどを効果的に活用していきたい。

● 学校外のまちづくりに関わっている方など外部人材の活用をさらに積極的に取り入れていきたい。

● 評価規準の設定や評価方法の工夫を引き続き検討していくことで、生徒、そして地域の未来につながる評価の在り方について研究を進めていきたい。

Ⅳ　講演要旨

質の高い探究的な学びを実現する総合的な学習の時間
－次期学習指導要領の議論を踏まえて－

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官　齋藤　博伸

○　繰り返し関わる「探究のプロセス」は、３回転を意識しながらするとよい。１学期→２学期→３学期と学期ごとに改善してレベルアップしていく方法や、校内→校外→地域、今→昔→未来などと場所や時間の視点を変えていくという様々な３回転がある。だんだんと質を向上させていくことが大切（資料１）。

○　総合的な学習の時間の単元開発は、他の教科よりも特徴的である。単元開発は、商品開発と似ている。（商品開発のプロ　近野　潤　氏　初等教育資料 2025 年９月号・「教育の扉」より）

①　原料×配合×工程×デザイン（アイス）→対象×体験×探究×参画

「子どもたちがわくわくするような対象」×「実際にフィールドワークやものづくりなどの体験」×「課題設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の４つのプロセスを経ながら自分で解決していく探究」×「社会や学校全体に役立つような参画」を考えていく。

②　現地・現物・現実（バナナ）→体験・言葉・本物

体験した後、言葉にしていくことが大切。そして、これらのことをいかに本物にしていくか。本物ではないと、探究にはならない。３回転のプロセスの中でどこに壁をつくっていくか。その壁を乗り越えるためには多くの時間がかかるため、時間の指導計画を考える。

③　目的・目標・手段（桃太郎）→理想・課題・解決

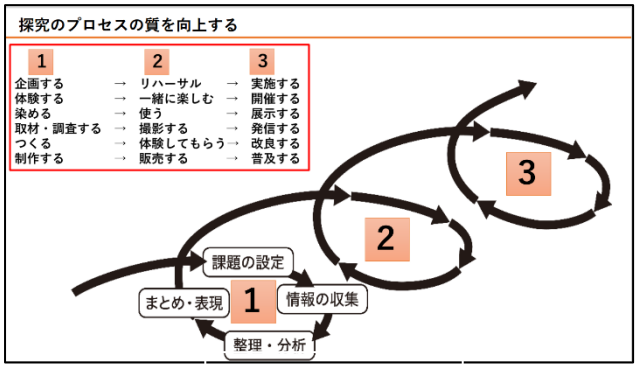
地域をこうしたい、自分がこうなりたいなどの理想を目的として、何を課題にしてどのように解決していくかを考える。理想をはっきりとさせ、目的を教師と子どもで共有していく。活動が目的になってはいけない。

○　単元の質を高める単元作りでは、「問題を見出し解決していく」、「探究的な学習過程を展開する」、「関心や疑問を生かす」、「日常生活や社会との関わりを重視する」という総合的な学習の時間の特徴を考える。実際に計画を作る際には、「発想する段階」→「構想する段階」→「計画する段階」があり、実現可能かどうかを検討する。子どもたちの好奇心「やってみたい！」や探究心「どうして？」を常に問い続けながら作っていく。

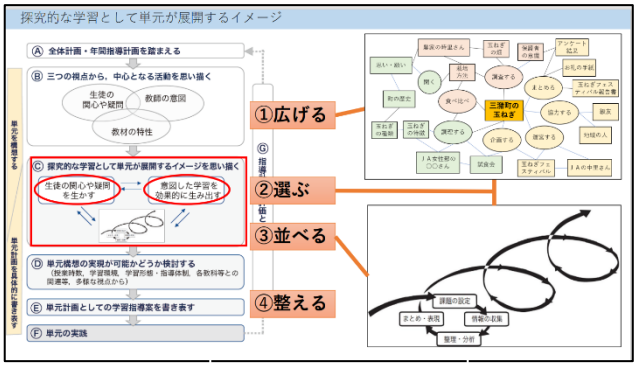
○　教材研究では、どのように活動をしていくか、どんな学習対象に出会っていくか、どのような探究のプロセスを組んでいくかということを考える。それが、子どもたちの好奇心や探究心を高めることになっていく。

○　単元を作る際には、ウェビングで子どもの学習活動の広がりや、関わる人・もの・ことの広がりを意識していく。それが子どもの関心や疑問に柔軟に対応することにつながっていく。子どもの関

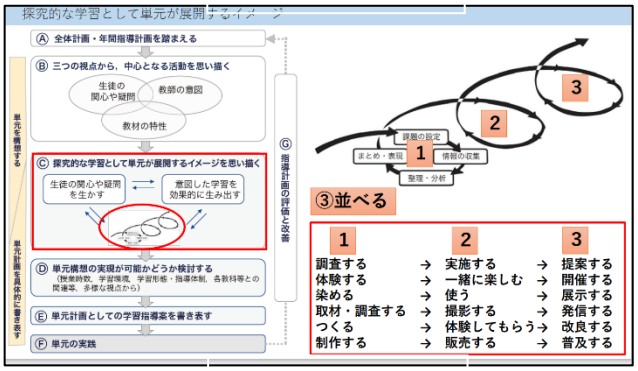
心や疑問を生かす活動と教師の意図した活動のベストミックスを選んで並べる。その際に、探究の質がより上がっていくようにする（資料２・３・４）。その後、それらを小単元に割り振る。次に、各教科との関連や単元において目指す資質・能力の育成がどこで図られるかを組み込みながら指導計画に書き表していく（資料５・６・７・８）。



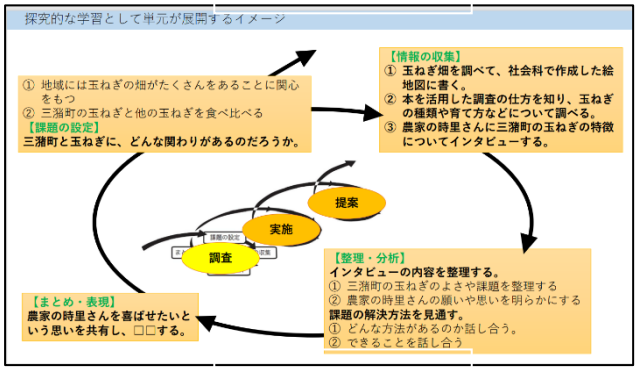
〈　資料１　〉



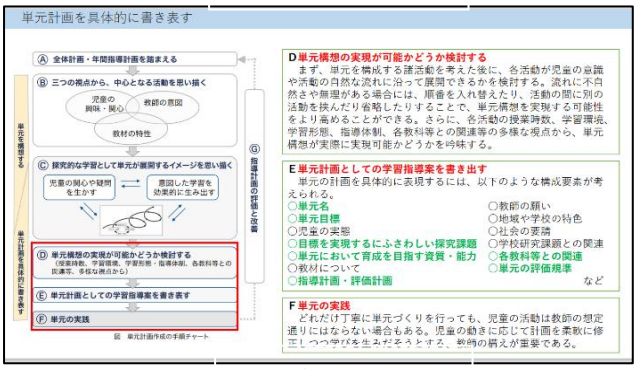
〈　資料２　〉



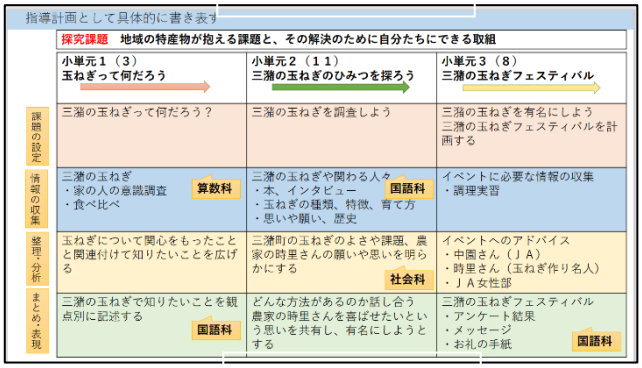
〈　資料３　〉



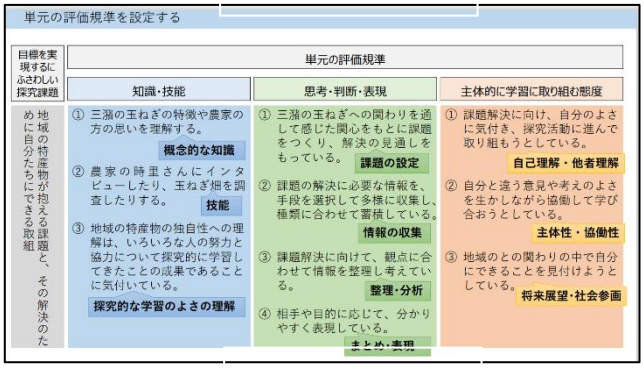
〈　資料４　〉



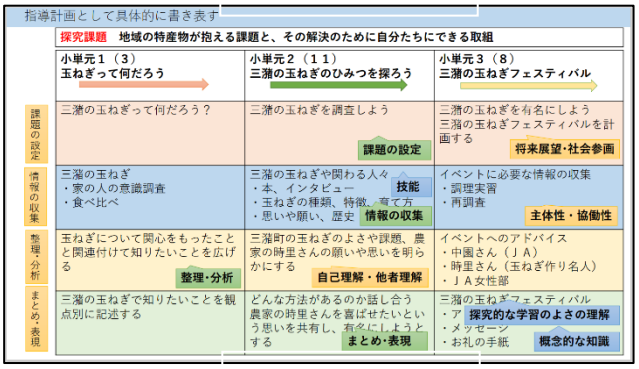
〈　資料５　〉



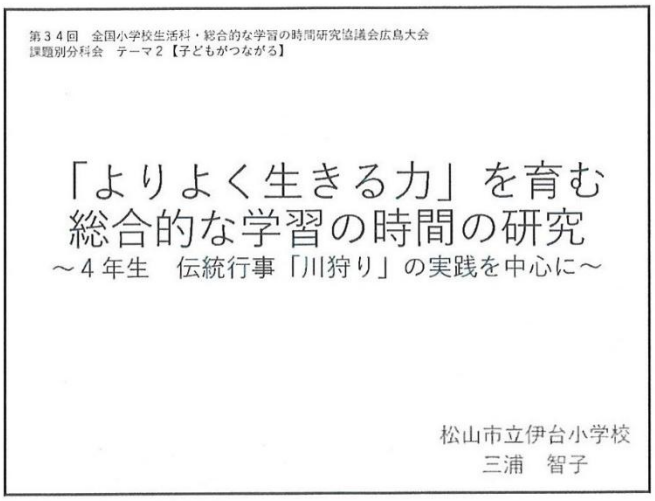
〈　資料６　〉

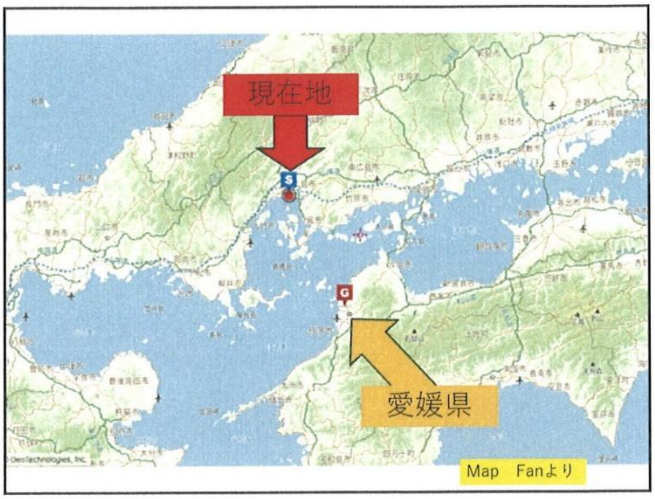


〈　資料７　〉



〈　資料８　〉


第３４回　全国小学校生活科・総合的な学習の時間研究協議会広島大会
課題別分科会　テーマ２【子どもがつながる】
「よりよく生きる力」を育む
総合的な学習の時間の研究
～４年生　伝統行事「川狩り」の実践を中心に～
松山市立伊台小学校
三浦　智子


現在地
愛媛県
Map　Fanより


松山市
Map Fanより


久万川
久枝小
伊予和気駅
三津浜駅
Map Fanより


久万川
久枝地区まちづくり協議会HPより


松山市立久枝小学校
松山市立久枝小学校HPより

生活科　　総合的な学習の時間

2年生 どんど焼き → 3年生 ・地域探検 ・地域にいる○○名人さん → 4年生 「川狩り」 → 5年生 SDGs → 6年生 平和学習 キャリア教育

地域への愛着をもつ子ども
持続可能な社会の創り手を育てる

2年生　「どんど焼き」



3年生　「名人さんに学ぼう」

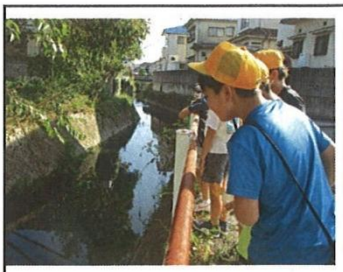


3年生　地域探検
ポンジュース工場見学



4年生「川狩り」







久枝地区まちづくり協議会HPより



２０２５年１０月７日
松山秋祭り本番の川狩り



４年生　総合的な学習の時間

「川狩り」学習会

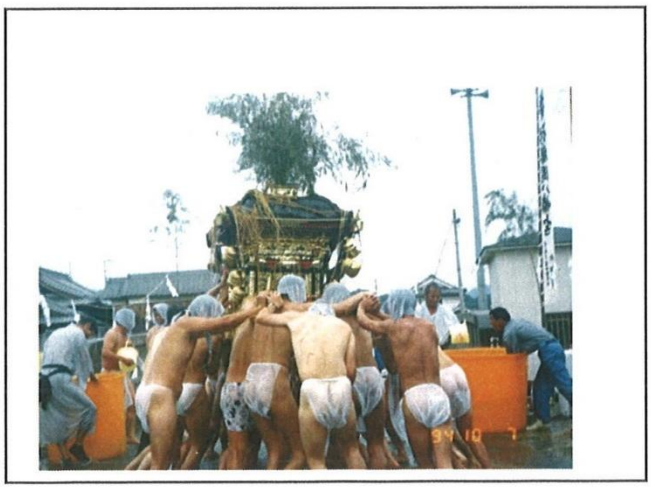


講師　安勝会　松浦先生









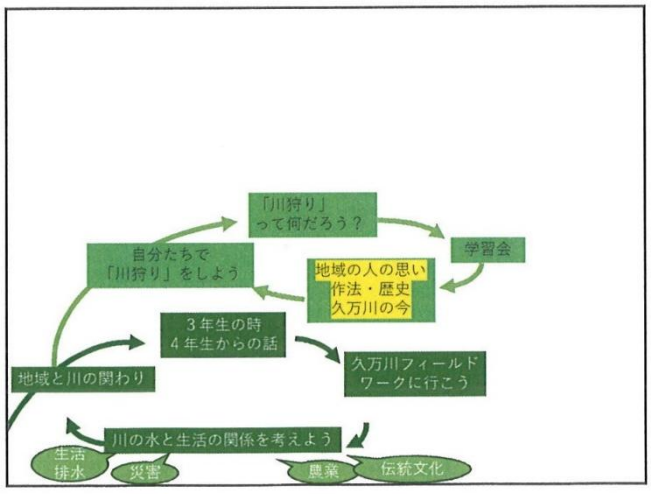

川狩り会場


４年生　総合的な学習の時間
「川狩り」学習会
講師　安勝会　松浦先生

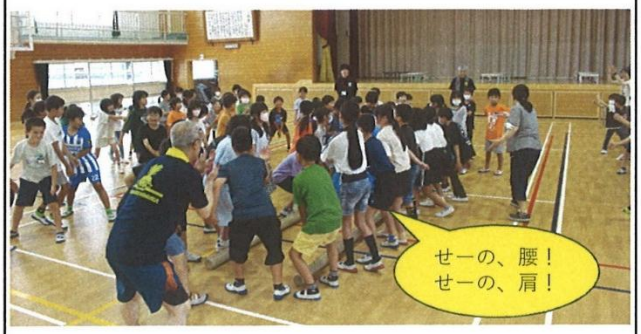

４年生　総合的な学習の時間
「川狩り」学習会
講師　「安勝会」の皆様


４年生　総合的な学習の時間
「川狩り」学習会
ミニおみこしで
動きも覚えるよ
やっとこせー
よーいやな♪
講師　「安勝会」の皆様


川をきれいに守っていこう
伝統を受け継いでほしい
困難なことにも立ち向かってがんばれ
昔の人々の努力を忘れないで


「川狩り」って何だろう？
学習会
自分たちで「川狩り」をしよう
地域の人の思い
作法・歴史
久万川の今
３年生の時
４年生からの話
久万川フィールドワークに行こう
地域と川の関わり
川の水と生活の関係を考えよう
生活排水
災害
農業
伝統文化

4年生　総合的な学習の時間



講師　「安勝会」の皆様





手作りの神輿



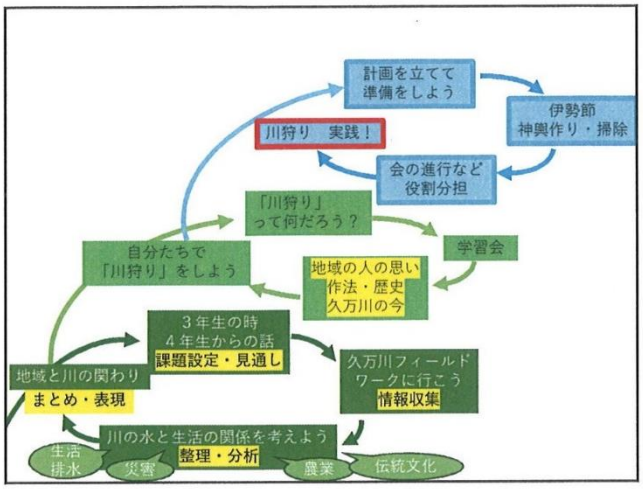




2025年　４年生川狩り本番



愛媛CATV様　youtube配信動画より



４年生児童の感想より

「川狩り」がある久枝でよかった。

将来も川狩りができるといいな。川を大切にしなきゃ。

地域の伝統行事を体験できてよかった。

みんなに良さを伝えたい！

最高の思い出！

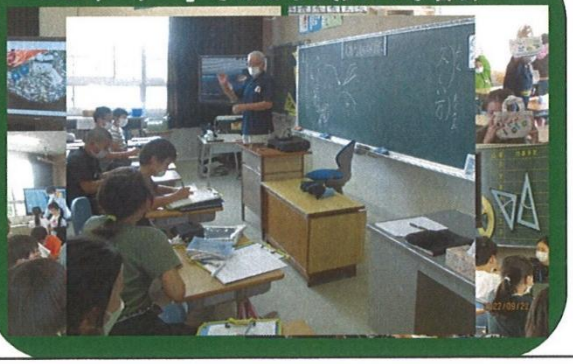
安勝会のみなさんや地域の方、ありがとうございました。

５年生「SDGs」



５年生「SDGs」

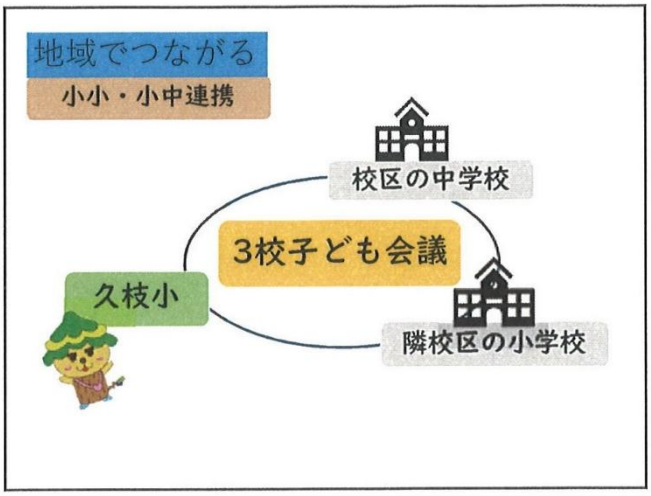
「エコリーダー」さんたちを招いて学習会



川でつながる




川でつながる
いつか、
「川狩り」ぜひ
見に来てね～！


地域でつながる
小小・小中連携
校区の中学校
3校子ども会議
久枝小
隣校区の小学校


地域でつながる
「３校子ども会議」
小小・小中連携
自分たちの校区を
より良くしたい！


地域でつながる
小小連携
わたしたちの地域、
自慢すべき魅力が
いっぱい！
松山市立潮見小学校

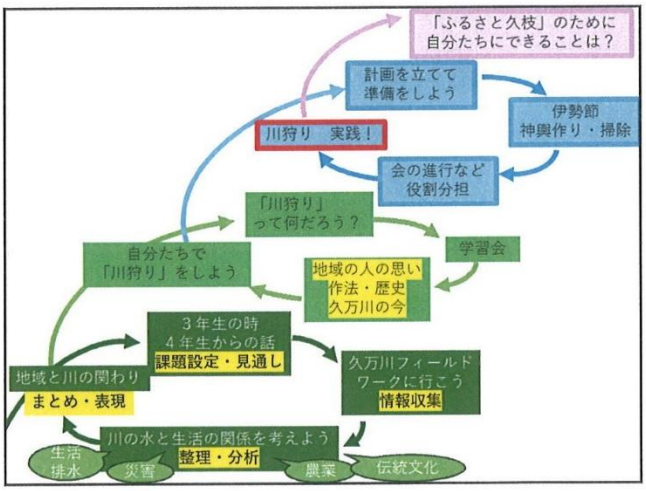

地域でつながる
小小連携
ぼくたちの自慢
聞いてください！
2023/09/13


地域でつながる
小小連携
お互いの校区の
ステキを
見つけたよ！

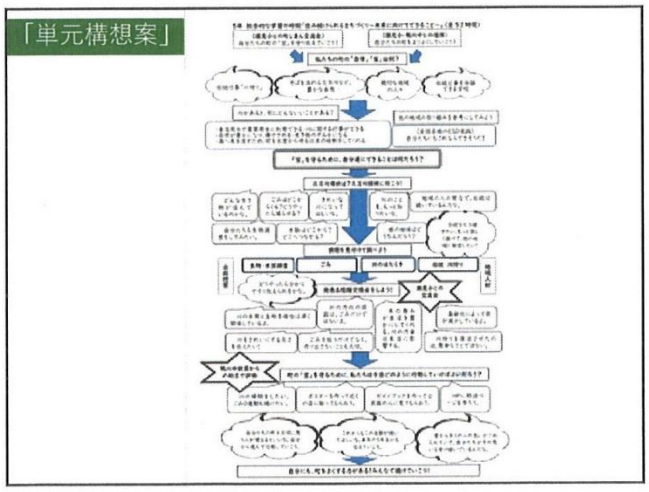

地域でつながる
小中連携
中学校の教員からの助言
マイクロ・
ナノプラス
チック問題
見つかる生き物で
川の汚れが分かる
よ

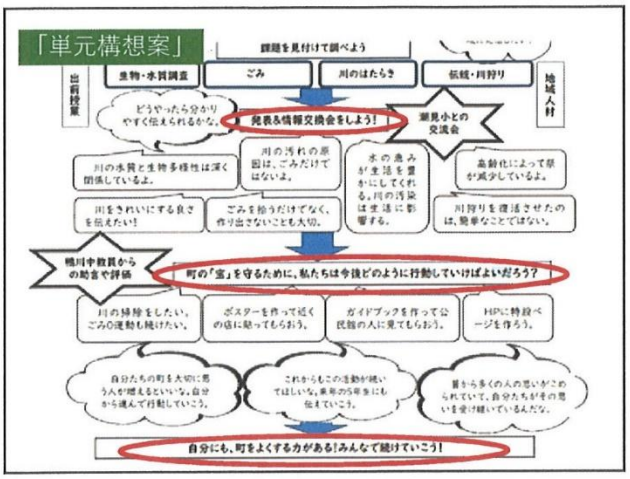

地域でつながる
小中連携
中学校の教員からの助言
生物の先生から、川の
生き物について詳しく
教わったよ！

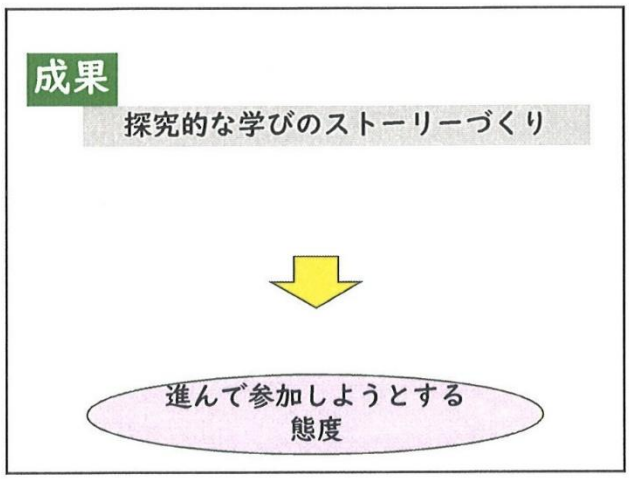

４年生に紹介
来年は、
ぼくたちが
５年生！


「ふるさと久枝」のために
自分たちにできることは？
計画を立てて
準備をしよう
伊勢節
神輿作り・掃除
川狩り　実践！
会の進行など
役割分担
「川狩り」
って何だろう？
学習会
自分たちで
「川狩り」をしよう
地域の人の思い
作法・歴史
久万川の今
３年生の時
４年生からの話
課題設定・見通し
久万川フィールド
ワークに行こう
情報収集
地域と川の関わり
まとめ・表現
川の水と生活の関係を考えよう
整理・分析
生活
排水
災害
農業
伝統文化

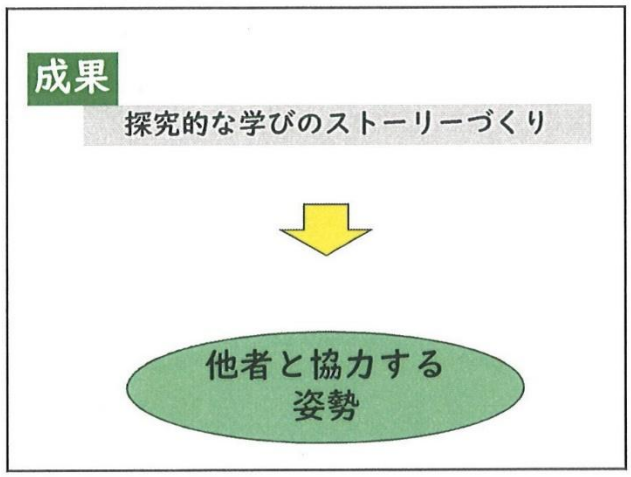

職員研修
他校との連携
2022/08/03


「単元構想案」


「単元構想案」
課題を見付けて調べよう
出前授業
生物・水質調査
ごみ
川のはたらき
伝統・川狩り
地域人材
どうやったら分かりやすく伝えられるかな
発表&情報交換会をしよう!
潮見小との交流会
川の水質と生物多様性は深く関係しているよ。
川の汚れの原因は、ごみだけではないよ。
水の恵みが生活を豊かにしてくれる。川の汚染は生活に影響する。
高齢化によって草が減少しているよ。
川をきれいにする良さを伝えたい!
ごみを拾うだけでなく、作り出さないことも大切。
川狩りを復活させたのは、簡単なことではない。
鴨川中教員からの助言や評価
町の「宝」を守るために、私たちは今後どのように行動していけばよいだろう?
川の掃除をしたい。ごみの運動も続けたい。
ポスターを作って近くの店に貼ってもらおう。
ガイドブックを作って公民館の人に見てもらおう。
HPに特設ページを作ろう。
自分たちの町を大切に思う人が増えるといいな。自分から進んで行動していこう。
これからもこの活動が続いてほしいな。来年の5年生にも伝えていこう。
皆から多くの人の思いがこめられていて、自分たちがその思いを受け継いでいるんだな。
自分にも、町をよくする力がある!みんなで続けていこう!


成果
探究的な学びのストーリーづくり
進んで参加しようとする態度


成果
探究的な学びのストーリーづくり
進んで参加しようとする態度


成果
探究的な学びのストーリーづくり
他者と協力する姿勢


順番に質問しようね
みんなで作った川探検マップ
インタビュー、ドキドキする!


他者と協力する姿勢

成果

小小連携・小中連携

↓

成果

小小連携・小中連携

↓



成果

② 小小連携・小中連携









バザーの日に地域の方へ呼びかけ



バザーの日に地域の方へ
呼びかけ

11 住み続けられるまちづくりを

自分たちの
校区を
より良くしよう

課題

- 川の環境改善のためには、持続可能な活動が必要
- 教員間での適切な引継ぎ

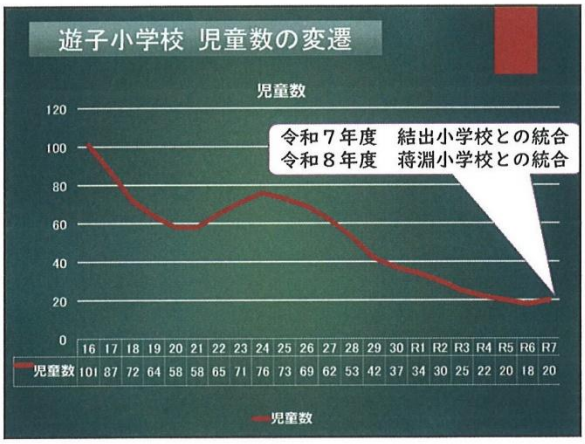
ご清聴
ありがとうございました！

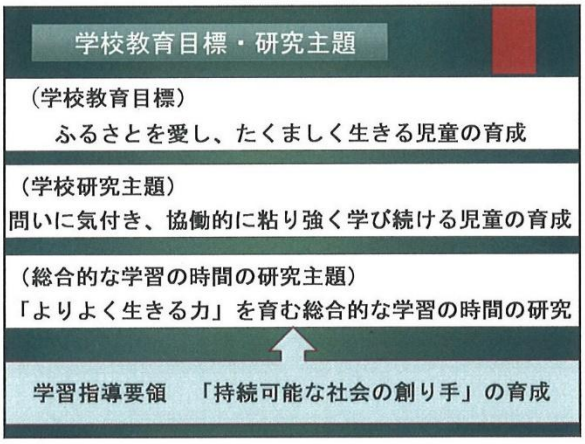


久枝小学校のキャラクター
「くすのっきー」


「よりよく生きる力」を育む総合的な学習の時間の研究
―令和５・６年度「遊子の防災大作戦！」の実践から―
宇和島市立遊子小学校　西原　睦美


遊子の紹介
宇和島市
2025年７月31日現在
65,874人
水荷浦段々畑（段畑）
遊子小マスコット
いもこ
遊子小学校


遊子小学校　児童数の変遷
児童数
令和７年度　結出小学校との統合
令和８年度　蒋淵小学校との統合
16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7
児童数 101 87 72 64 58 58 65 71 76 73 69 62 53 42 37 34 30 25 22 20 18 20
児童数


学校教育目標・研究主題
（学校教育目標）
ふるさとを愛し、たくましく生きる児童の育成
（学校研究主題）
問いに気付き、協働的に粘り強く学び続ける児童の育成
（総合的な学習の時間の研究主題）
「よりよく生きる力」を育む総合的な学習の時間の研究
学習指導要領　「持続可能な社会の創り手」の育成


本校が推進するふるさと教育


Ｒ６年度　身に付けたい資質・能力
（総合的な学習の時間　全体計画より）

令和５・６年度の状況は・・・

＜令和５年度＞

・遊子小１年目　昇任教頭　６年生学担
・総合的な学習の時間→３・４年生、５年生、６年生で実施
・中四国へき地教育研究大会発表校
　（１・２年生　生活科）
　（３・４年生　総合「海の学習」）
　（６年生　　総合「防災学習」）

＜令和６年度＞

・遊子小２年目　学担なし
　音楽・家庭科・外国語（活動）・総合的な学習の時間
・総合的な学習の時間　→３～６年生で実施
・防災学習で他機関からの出前授業の時間　増加

研究の内容

1　地域素材・外部との連携を生かした単元構想

（１）令和５年度（６年生７名）の実践から

（２）令和６年度（３～６年生12名）の実践から

2　学びを深めていくための手立て

（１）令和５年度（６年生７名）の実践から

（２）令和６年度（３～６年生12名）の実践から

活動の内容

1　地域素材・外部との連携を生かした単元構想

（１）令和５年度（６年生７名）の実践から

【キーワード】
・地域素材の活用
・年度初めの見通し
・専門家・地域連携
・カリキュラム・マネジメント



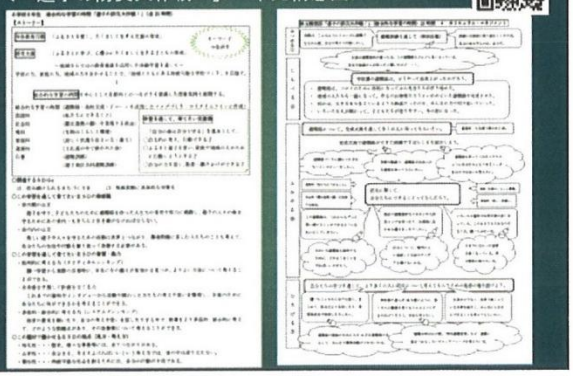
Ｒ５年度「遊子の防災大作戦！」より

【キーワード】・地域素材の活用



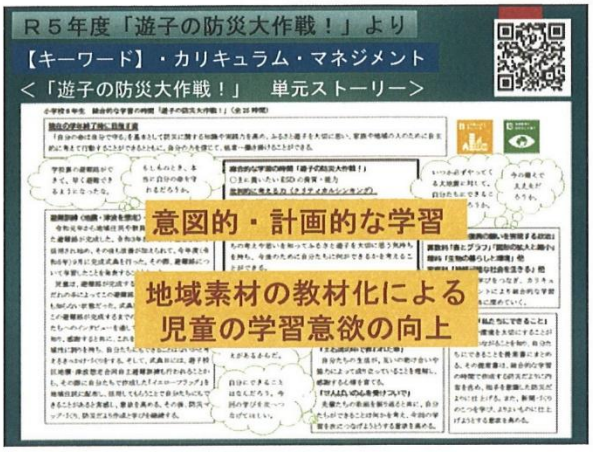
【キーワード】・年度初めの見通し

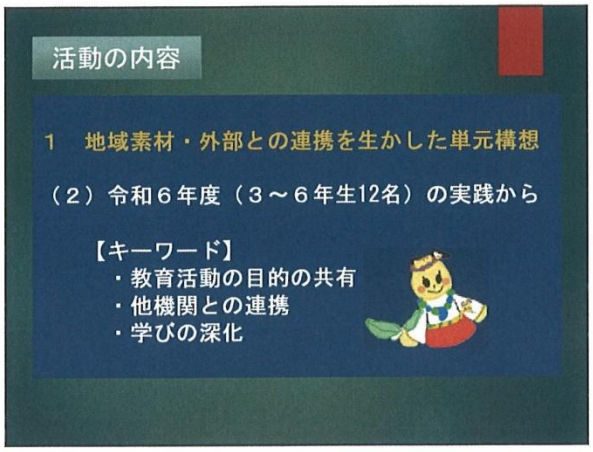
＜「遊子の防災大作戦！」　単元構想図＞

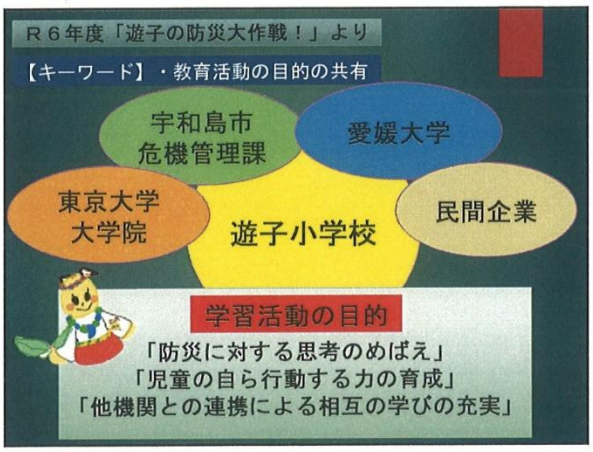


【キーワード】・専門家・地域連携

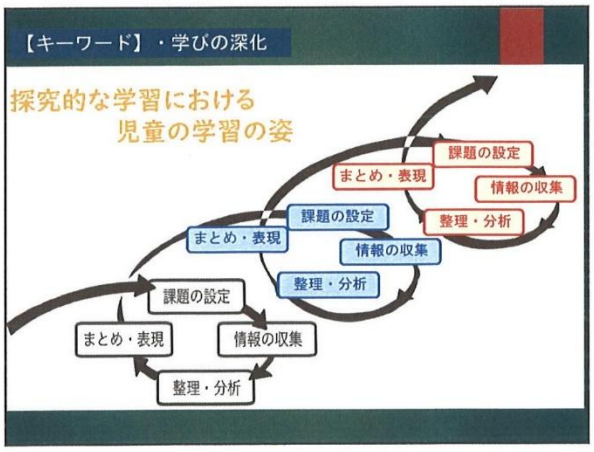


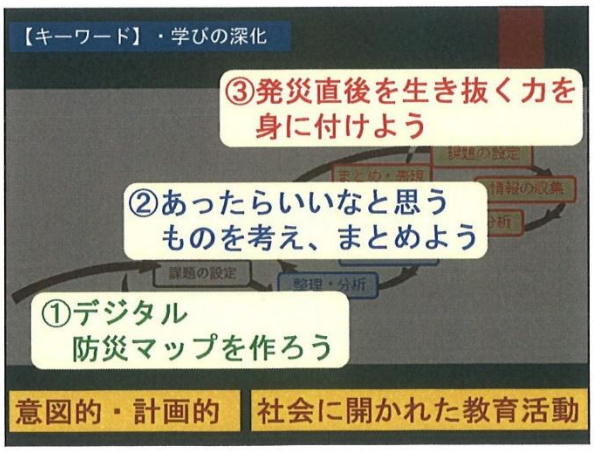

Ｒ５年度「遊子の防災大作戦！」より
【キーワード】・カリキュラム・マネジメント
＜「遊子の防災大作戦！」　単元ストーリー＞
意図的・計画的な学習
地域素材の教材化による
児童の学習意欲の向上


活動の内容
１　地域素材・外部との連携を生かした単元構想
（２）令和６年度（３～６年生12名）の実践から
【キーワード】
・教育活動の目的の共有
・他機関との連携
・学びの深化


Ｒ６年度「遊子の防災大作戦！」より
【キーワード】・教育活動の目的の共有
宇和島市
危機管理課
愛媛大学
東京大学
大学院
遊子小学校
民間企業
学習活動の目的
「防災に対する思考のめばえ」
「児童の自ら行動する力の育成」
「他機関との連携による相互の学びの充実」


【キーワード】
・他機関との連携
地域・
公民館関係者
とも連携


【キーワード】・学びの深化
探究的な学習における
児童の学習の姿
課題の設定
まとめ・表現
情報の収集
整理・分析


【キーワード】・学びの深化
③発災直後を生き抜く力を
身に付けよう
②あったらいいなと思う
ものを考え、まとめよう
①デジタル
防災マップを作ろう
意図的・計画的
社会に開かれた教育活動

活動の内容

2　学びを深めていくための手立て

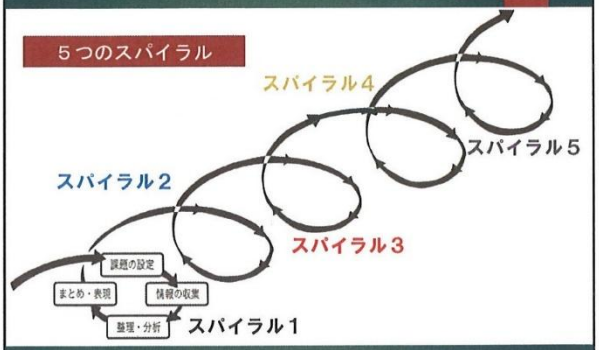
（1）令和５年度（６年生７名）の実践から

【キーワード】
・スパイラルな学び
・他教科との関連
・他者への発信



Ｒ５年度「遊子の防災大作戦！」より

５つのスパイラル



【キーワード】・スパイラルな学び

スパイラル１

課題の設定
学校裏の避難路は
どうやってできたのだろう

情報の収集
・これまでの写真
・関わった人への聞き取り
・インタビュー

整理・分析
収集した情報を整理して、
みんなに知ってもらう方法を考える

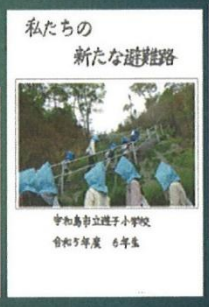
まとめ・表現
『私たちの避難路』
冊子にまとめる

スパイラル１　避難路に関する学習





県で優秀賞に…



みんなでまとめた一冊は、

スパイラル２

課題の設定
地域の人たちのために
自分たちも何かしたい

情報の収集
・取り組めそうなこと
・他の学校の調査
・インタビュー

整理・分析
・できる、したいこと、伝えたいこと
みんなで取り組むことを決定する

まとめ・表現
『イエローフラッグ』
作成して地域に配付

スパイラル２　イエローフラッグづくり

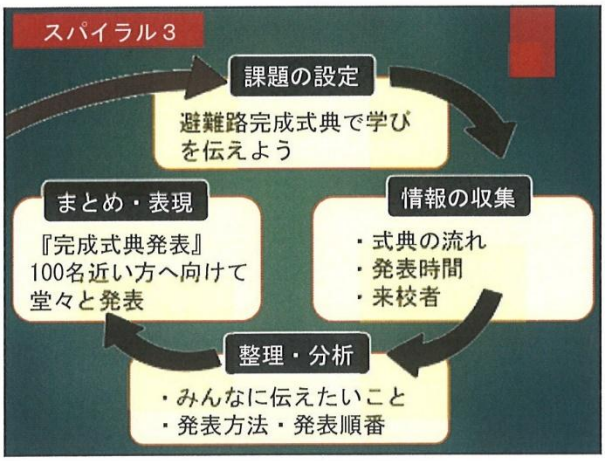




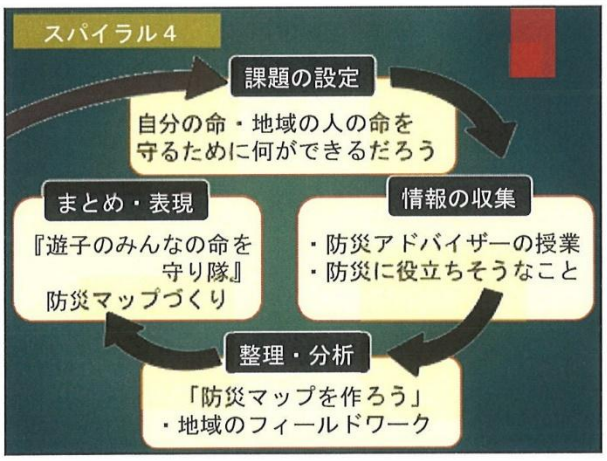
全部で400セットほどを完成させ、
各自治会の方々へ配付しました！






スパイラル３
課題の設定
避難路完成式典で学び
を伝えよう
まとめ・表現
『完成式典発表』
100名近い方へ向けて
堂々と発表
情報の収集
・式典の流れ
・発表時間
・来校者
整理・分析
・みんなに伝えたいこと
・発表方法・発表順番


スパイラル３
避難路完成式典
引っ込み思案の子どもたちが、たくさんの人の前で、
堂々と発表する・・・。

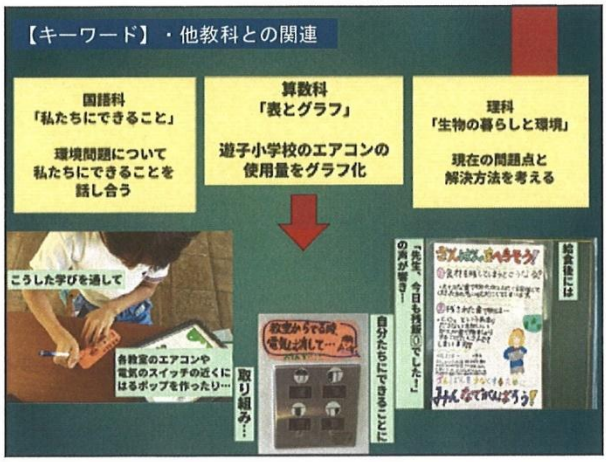

スパイラル４
課題の設定
自分の命・地域の人の命を
守るために何ができるだろう
まとめ・表現
『遊子のみんなの命を
守り隊』
防災マップづくり
情報の収集
・防災アドバイザーの授業
・防災に役立ちそうなこと
整理・分析
「防災マップを作ろう」
・地域のフィールドワーク

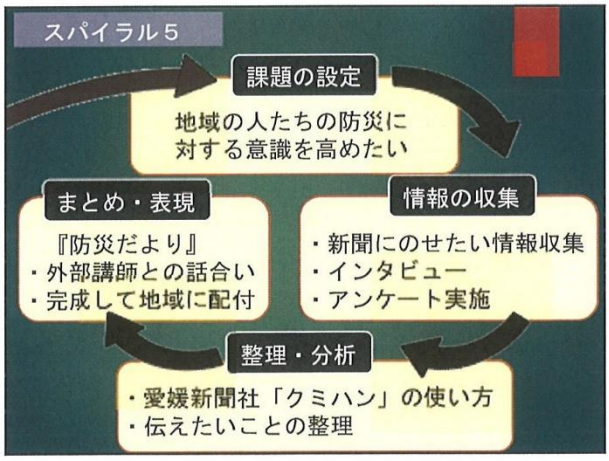

スパイラル４
防災マップづくり
フィールドワークに出かける前にタブレットの確認
分かりやすい配置を考えて…
よし、フィールドワークへ出発だ！
防災のスペシャリストの方に防災に関
することやマップづくりのこつを教えて
もらいながら、頑張って作成！


QRコード
学びのあしあと


作成した防災マップが、あるマップコンクールで文部科学大臣賞を受賞。
地域の防災力向上のために頑張ってくれた、と地域からも表彰されるとともに、
地域との連携が更に深まっていく・・・。


YUSUI「遊子のみんなの命を守り隊」
この取組を知った四国ESDセンターからお声掛けいただき、宇和島市のNPO団体の方々の御協力を得て、カレンダーを作成してもらって地域に配付することに・・・。


【キーワード】・他教科との関連
国語科
「私たちにできること」
環境問題について私たちにできることを話し合う
算数科
「表とグラフ」
遊子小学校のエアコンの使用量をグラフ化
理科
「生物の暮らしと環境」
現在の問題点と解決方法を考える
こうした学びを通して
各教室のエアコンや電気のスイッチの近くにはるポップを作ったり…
取り組み
自分たちにできること
終了後には


スパイラル５
課題の設定
地域の人たちの防災に対する意識を高めたい
情報の収集
・新聞にのせたい情報収集
・インタビュー
・アンケート実施
整理・分析
・愛媛新聞社「クミハン」の使い方
・伝えたいことの整理
まとめ・表現
『防災だより』
・外部講師との話合い
・完成して地域に配付


3年かけ　やっと完成!
地域の力　整備進む
避難路維持だより
遊子の防災大作戦!だより
ふるさとだいすき
みんなの命守り隊
避難路維持だより
防災強化だより
自然災害対策だより
スパイラル５
防災だよりづくり


自然災害対策だより
様々な災害なぜ増加?
防災強化だより
できるか!防災マップ
フィールドワークで調査


ゲストティーチャーを招き、内容を検討し…
ふるさと遊子を想う気持ちを深めながら…
自分たちが取り組んできたことは、
【共助】につながると知った…

【キーワード】・他者への発信



・避難路に関する冊子の作成
・地域へのイエローフラッグ配付
・避難路完成式典での発表
・防災マップ作成
・学習発表会
・防災だより配付

みんなのふるさと遊子についてのアンケート（R4~R5）

4　そう思う
3　まあまあ思う
2　あまり思わない
1　まったく思わない

	年度	月	4	3	2	1	3以上の割合	平均
自分の地域が好きか	R4	6	6	1	0	0	100%	3.857
		2	7	0	0	0	100%	4
	R5	6	7	0	0	0	100%	4
		10	6	1	0	0	100%	3.857
地域の人と話すことがあるか	R4	6	2	1	3	1	43%	2.571
		2	2	3	1	1	71%	2.857
	R5	6	2	4	1	0	86%	3.143
		10	3	3	1	0	86%	3.286
地域の人との活動は好きか	R4	6	3	3	1	0	86%	3.286
		2	2	4	1	0	86%	3.143
	R5	6	5	1	1	0	86%	3.571
		10	5	2	0	0	100%	3.714

活動の内容

2　学びを深めていくための手立て

（2）令和６年度（３～６年生12名）の実践から

【キーワード】
・1年間を見通した学びの深化
・他学年との交流による学び



③発災直後を生き抜く力を身に付けよう

②あったらいいなと思うものを考え、まとめよう

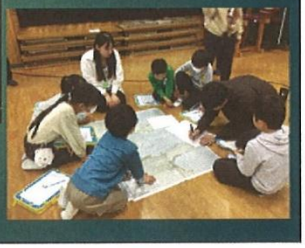
①デジタル防災マップを作ろう

【キーワード】
・1年間を見通した学びの深化

スパイラル１「デジタル防災マップを作ろう」

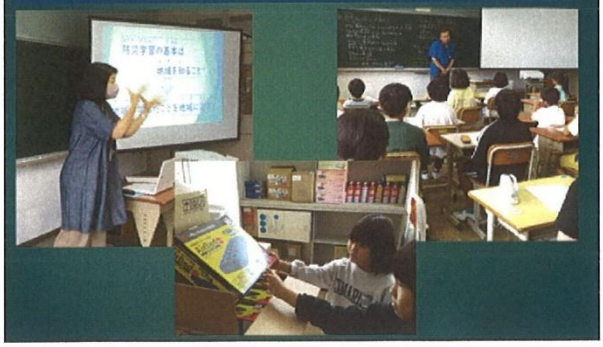
4／22　東京大学大学院生による防災に関する授業
（３～６年生）　２時間



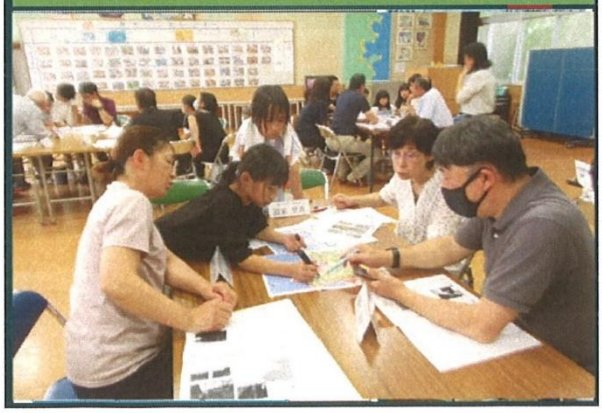


スパイラル１「デジタル防災マップを作ろう」

7／9～　防災アドバイザー等による授業　４時間
＋　保護者との夏休みデジタル防災マップづくり



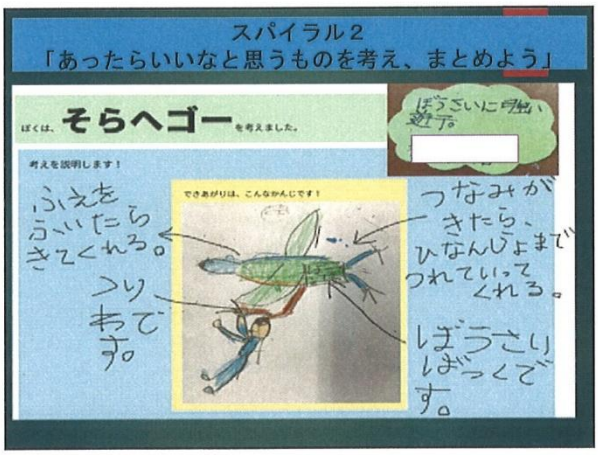
スパイラル１「デジタル防災マップを作ろう」

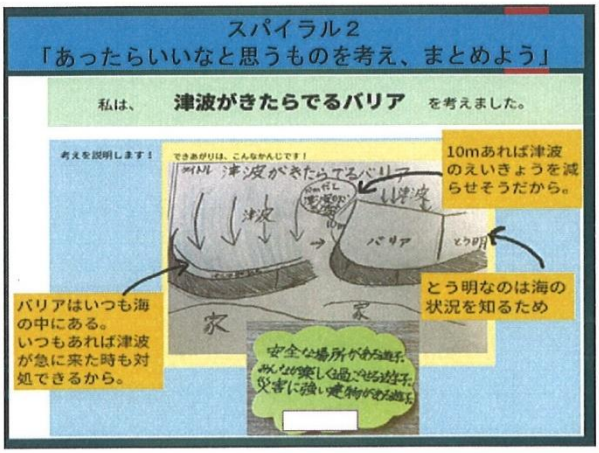


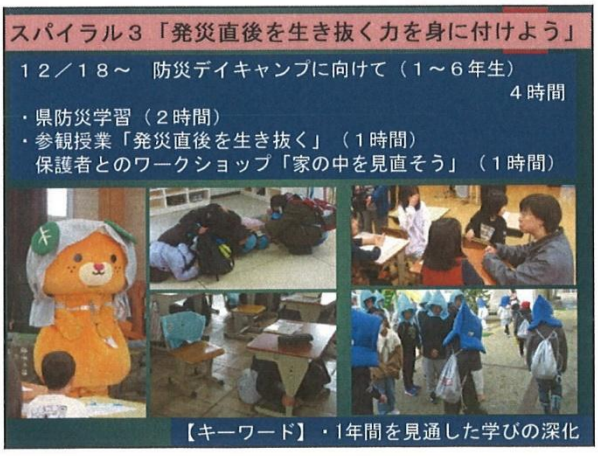

スパイラル２
「あったらいいなと思うものを考え、まとめよう」
９／５～　事前復興教育プログラム（３～６年生）５時間
災害が起こっても、
その後を生き抜いていかなくてはいけない！


スパイラル２
「あったらいいなと思うものを考え、まとめよう」
そらへゴー
つりイベント
【キーワード】・他学年との交流による学び


スパイラル２
「あったらいいなと思うものを考え、まとめよう」
東京大学大学院生が考えた公民館を含めた
キャンプ場の模型
東京大学復興デザインスタジオ2024

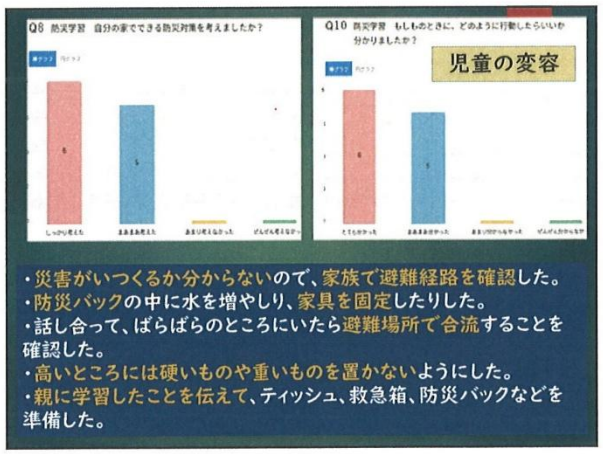

スパイラル２
「あったらいいなと思うものを考え、まとめよう」
ぼくは、そらへゴーを考えました。
ぼうさいに役立つ道具。
考えを説明します！
ふえをふいたらきてくれる。
つりおです。
できあがりは、こんなかんじです！
つなみがきたら、ひなんじょまでつれていってくれる。
ぼうさりばっぐです。

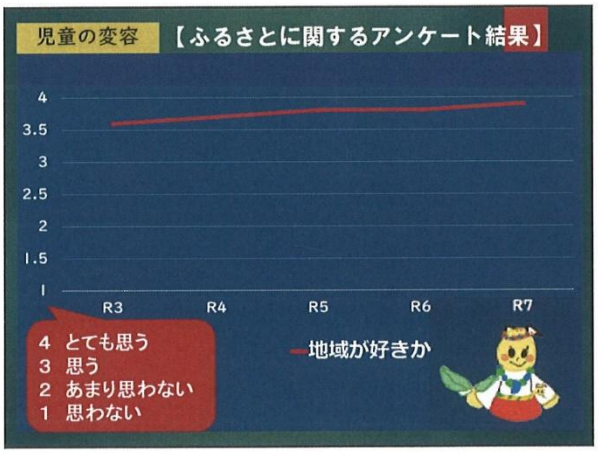

スパイラル２
「あったらいいなと思うものを考え、まとめよう」
私は、津波がきたらでるバリアを考えました。
考えを説明します！
できあがりは、こんなかんじです！
津波がきたらでるバリア
津波
バリア
とう明
家
家
10mあれば津波のえいきょうを減らせそうだから。
とう明なのは海の状況を知るため
バリアはいつも海の中にある。いつもあれば津波が急に来た時も対処できるから。
安全な場所がある道子。
みんなが楽しく過ごせる道子。
災害に強い建物がある道子。

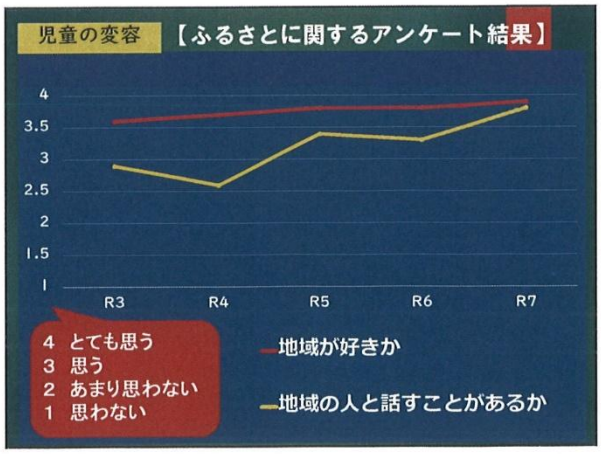

スパイラル３「発災直後を生き抜く力を身に付けよう」
１２／１８～　防災デイキャンプに向けて（１～６年生）
４時間
・県防災学習（２時間）
・参観授業「発災直後を生き抜く」（１時間）
保護者とのワークショップ「家の中を見直そう」（１時間）
【キーワード】・1年間を見通した学びの深化

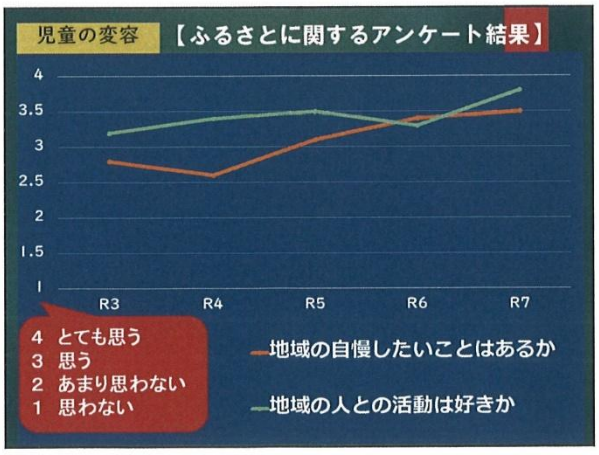

スパイラル３「発災直後を生き抜く力を身に付けよう」


スパイラル３「発災直後を生き抜く力を身に付けよう」
３／１１　防災デイキャンプ（１～６年生）５時間
防災倉庫
関わっていただいた皆さん、ありがとうございました！！

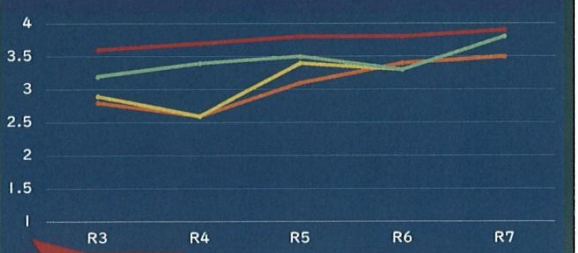

児童の変容
・災害がいつくるか分からないので、家族で避難経路を確認した。
・防災バックの中に水を増やしり、家具を固定したりした。
・話し合って、ばらばらのところにいたら避難場所で合流することを確認した。
・高いところには硬いものや重いものを置かないようにした。
・親に学習したことを伝えて、ティッシュ、救急箱、防災バックなどを準備した。


児童の変容
【ふるさとに関するアンケート結果】
4
3.5
3
2.5
2
1.5
1
R3
R4
R5
R6
R7
4 とても思う
3 思う
2 あまり思わない
1 思わない
地域が好きか


児童の変容
【ふるさとに関するアンケート結果】
4
3.5
3
2.5
2
1.5
1
R3
R4
R5
R6
R7
4 とても思う
3 思う
2 あまり思わない
1 思わない
地域が好きか
地域の人と話すことがあるか


児童の変容
【ふるさとに関するアンケート結果】
4
3.5
3
2.5
2
1.5
1
R3
R4
R5
R6
R7
4 とても思う
3 思う
2 あまり思わない
1 思わない
地域の自慢したいことはあるか
地域の人との活動は好きか

児童の変容　【ふるさとに関するアンケート結果】



4　とても思う
3　思う
2　あまり思わない
1　思わない

- 地域が好きか
- 地域の自慢したいことはあるか
- 地域の人と話すことがあるか
- 地域の人との活動は好きか

小学校で身に付けるべき力
「生きる力」
⇓
・生きて働く
「知識・技能」

・フィールドワーク
・教科横断的な学習
・デジタル防災マップづくり
・体験活動　等

・未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」

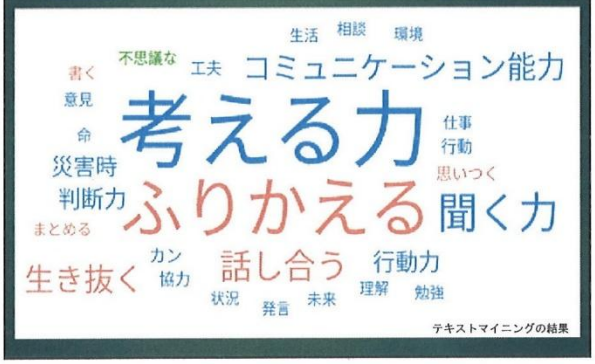
・防災マップづくり
・教科横断的な学習
・事前復興教育プログラム
・発表準備、発表　等

・学びを人生や社会に
生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」

・教育活動全て

文部科学省　小学校学習指導要領より

児童が考える総合的な学習の時間で身に付く力
（Ｒ７年度　１学期末　児童アンケートより）



テキストマイニングの結果

研究の成果
「よりよく生きる力」を育む総合的な学習の時間

・地域素材や外部との連携によって学習展開は大きく異なるが、目指す児童像、身に付けたい資質・能力を明確にして、教師が授業を展開することで、児童は、協働して学び続けることができた。

・カリキュラム・マネジメントや、異年齢の児童や多様な人との交流は、研究主題としている「よりよい力」を身に付けた児童の育成の一助となった。

今後の課題
「よりよく生きる力」を育む総合的な学習の時間

・今回は、一教員が継続して学習に関わることで、学習の継続が可能だったが、担当教員や体制に左右されず、学習を継続させていくための組織づくりが必要である。

・年間のスケジュールに余裕を持たせ、児童の練り合いの場を多くしながら、探究的な学びを進める必要がある。



御清聴　ありがとうございました。

令和７年度　総合的な学習の時間　各支部役員

支部名	委員長氏名	勤　務　校
四国中央	山本　健作	四国中央市立三島東中学校
新居浜	大政　佳範	新居浜市立金栄小学校
西条	山田　鈴夏	西条市立石根小学校
今治・越智	皆川　富美	今治市立日吉中学校
松山	小川　綾亮	松山市立和気小学校
東温	薬師寺　周作	東温市立西谷小学校
伊予	重松　友洋	砥部町立砥部中学校
上浮穴	佐藤　晴紀	久万高原町立美川中学校
大洲	小倉　拓人	大洲市立大洲北中学校
喜多	村田　潤	内子町立内子中学校
八幡浜	三好　あかね	八幡浜市立八幡浜中学校
西宇和	青石　加世子	伊方町立伊方小学校
西予	鎌田　祐綺	西予市立宇和町小学校
宇和島	山下　ちさ	宇和島市立城北中学校
北宇和	藤堂　大地	鬼北町立近永小学校
南宇和	梶原　恵理	愛南町立一本松小学校
附属	村上　美樹	愛媛大学教育学部附属中学校

令和７年度　教科等・専門研究委員会役員名簿

	氏　　名	職名	勤　務　校
委員長	佐藤　郁子	校長	松山市立道後小学校
副委員長	野間　宏美	校長	今治市立富田小学校
	信藤　明秀	校長	宇和島市立高光小学校
	相原　勝	校長	伊予市立港南中学校
事務局	佐藤　守	教諭	松山市立椿小学校
研究部長	吉岡　舞	教諭	愛媛大学教育学部附属小学校
事業部長	森貞　邦宏	教諭	松山市立拓南中学校
編集部長	池田　麻理奈	教諭	松山市立椿小学校
研究部	中野　慎也	教諭	松山市立久米小学校
	菊池　昌登	教諭	東温市立北吉井小学校
	中川　貴善	教諭	東温市立南吉井小学校
	小川　綾亮	教諭	松山市立和気小学校
事業部	灘野　裕子	教諭	松山市立久谷中学校
	飯田　将史	教諭	宇和島市立吉田小学校
	村上　大和	教諭	今治市立桜井小学校
	池内　浩平	教諭	東温市立重信中学校
	玉井　歩美	教諭	松山市立石井北小学校
	井手内　遼汰	教諭	松山市立北久米小学校
	皆川　富美	教諭	今治市立日吉中学校
	重松　友洋	教諭	砥部町立砥部中学校
	山本　健作	教諭	四国中央市立三島東中学校
編集部	原　奈緒子	教諭	松山市立久米中学校
	新家　実沙	教諭	松山市立石井小学校
	豊島　有希	教諭	松山市立道後小学校

編　集　後　記

「総合的な学習の時間教育研究集録」は、今回で第 23 集となります。

今年度もそれぞれの学校で試行錯誤しながら、地域や学校の特色、児童の実態に応じたカリキュラムを編成し、実践されてきたことと思います。各学校の実践から、人、こと、ものとのつながりを大切にした教育活動が行われていることを感じました。それらとの関わりを通して子どもたちは、学びを実感を伴ったものとして深め、他者と協働しながら主体的に考え、行動する力を身に付けてきていると思います。

今年度も、先生方の御尽力により、貴重な研究発表及び実践研究報告を掲載することができました。御寄稿くださった先生方に深く感謝申し上げます。

私たち総合的な学習の時間研究委員会は、今後も、更に探究的な学習や子どもたちの豊かな学びの姿を創造し、よりよい総合的な学習の時間の在り方を先生方と共に研究し続けていきたいと考えています。先生方におかれましては、本誌をお読みいただき、御意見や御要望がありましたら、是非、総合的な学習の時間研究委員会までお寄せください。

最後になりましたが、ご多用の折にも関わらず、快く講演をお引き受けいただきました文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官、国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部教育課程調査官 齊藤博伸先生、貴重な実践を発表していただきました四国中央市立上分小学校の越智啓路先生、松前町立松前中学校の渡部馨介先生に心よりお礼申し上げます。

令和８年２月

愛媛県教育研究協議会　総合的な学習の時間研究委員会　編集部一同

令和７年度
総合的な学習の時間教育研究集録
第 23 集

発行日　令和８年２月
発行所　愛媛県教育研究協議会　総合的な学習の時間研究委員会